

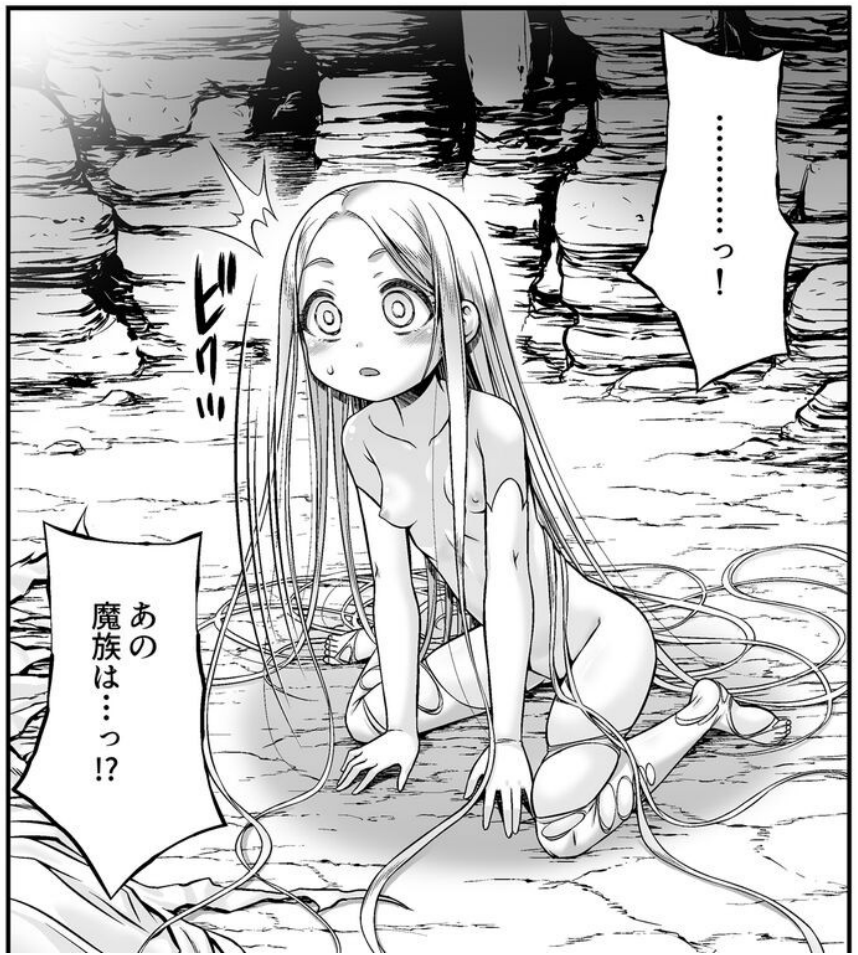
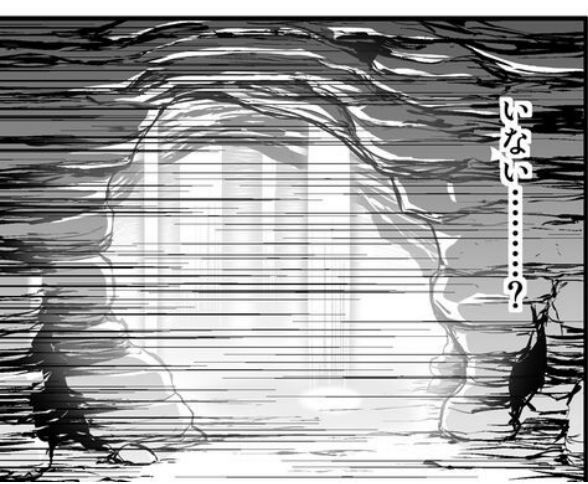
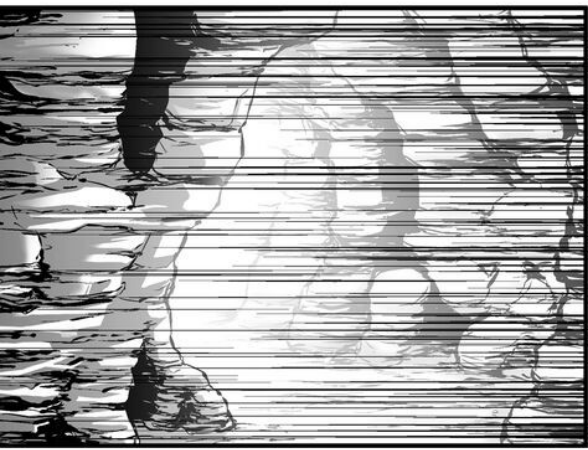
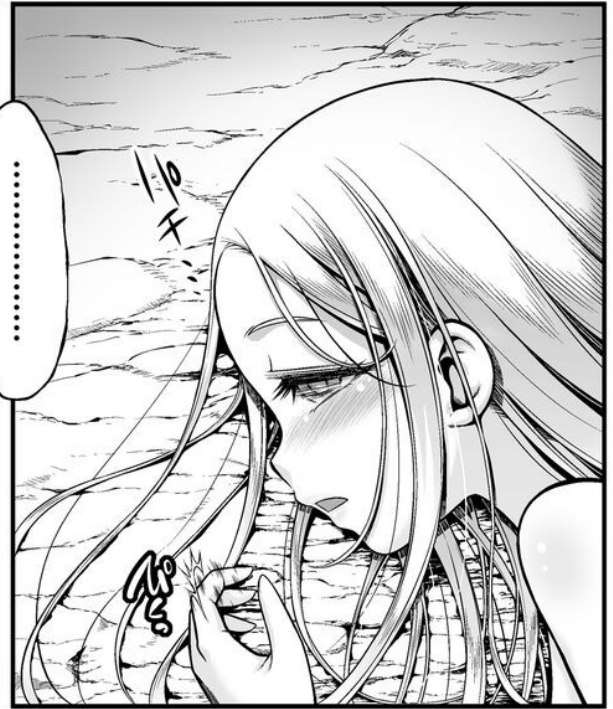
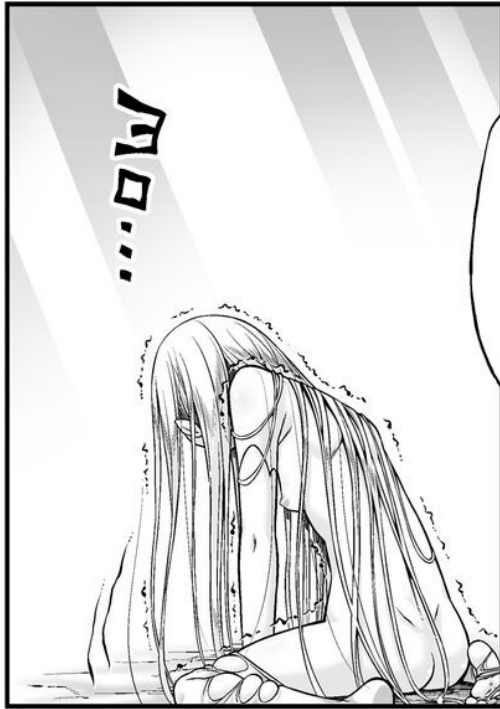
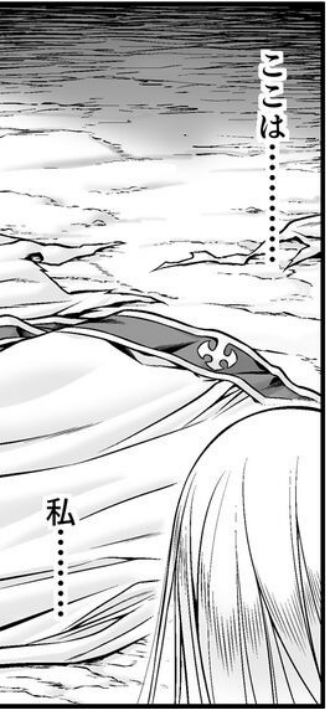
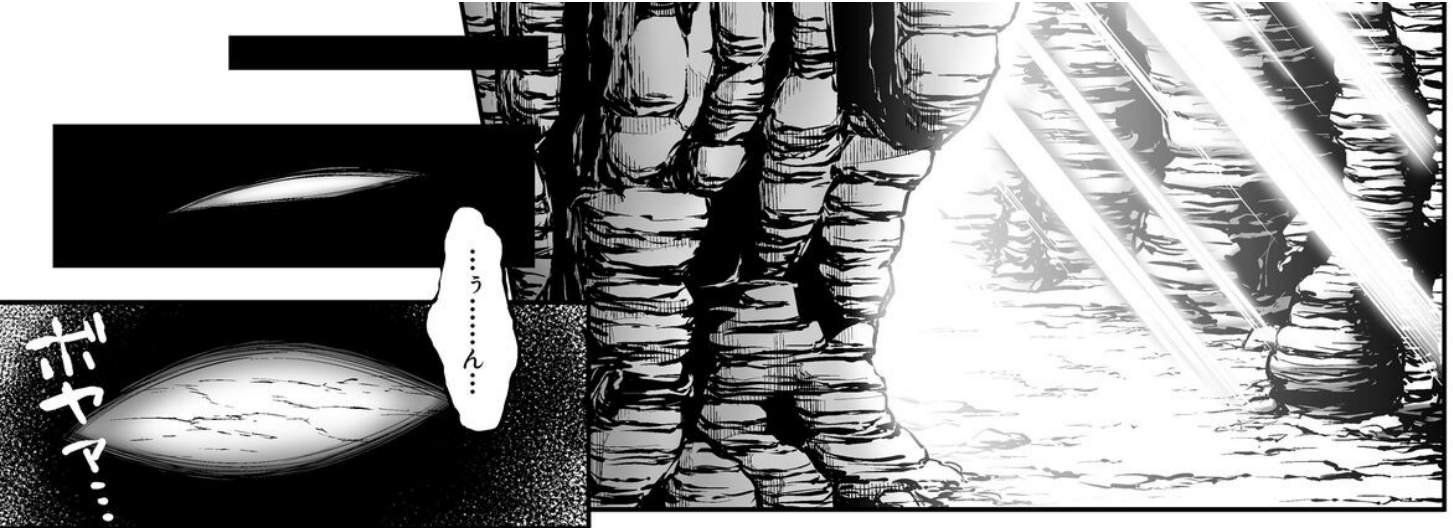


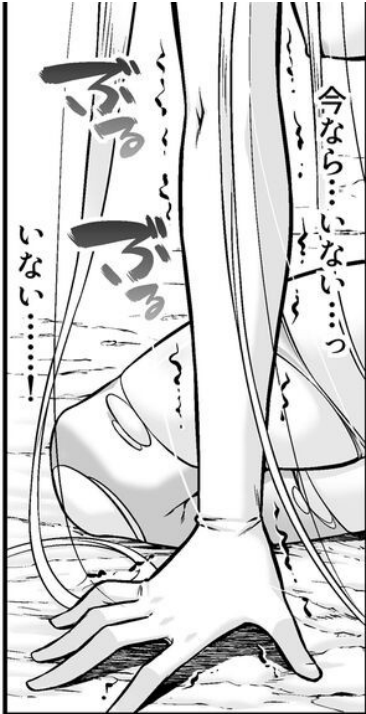
淫魔と

聖女

聖女

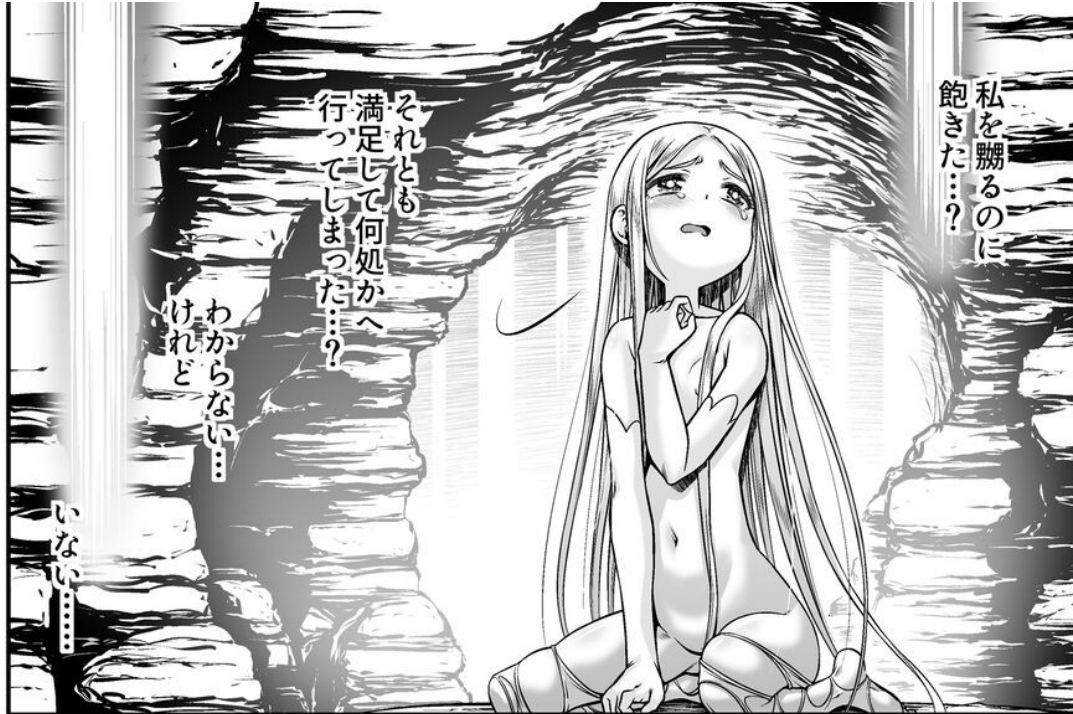
18  
FOR ADULT ONLY  
おぼろ





いない……!

今なら……いない……っ



私を勝るのに飽きた……?

それとも満足して何処かへ行ってしまった……?

わからない……けれど

いない……



うう……っ

ユレミ



まだ身体が……

ガッ

ガッ

ガッ

毒も……浄化しないと



あうっ



もう私には抗う術がない……!



逃げなくては……

あの魔族が戻らないうちに少しでも遠くへ……!

あの魔族が戻ってきてしまったら……

また捕まってしまったら

ズル

ズル

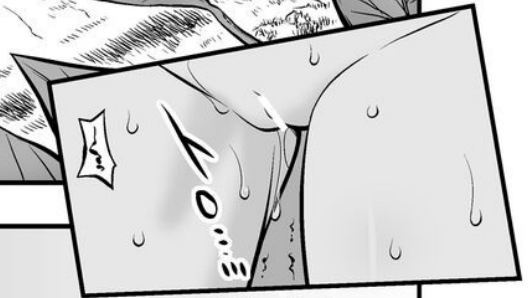
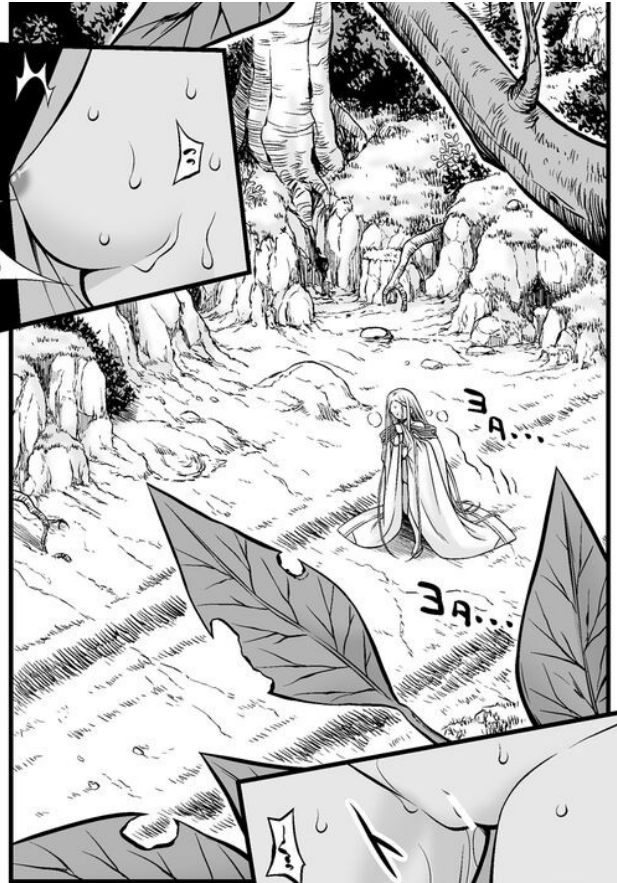


毒は全て浄化した  
はずなのに…

何故…こんなに…  
敏感に…



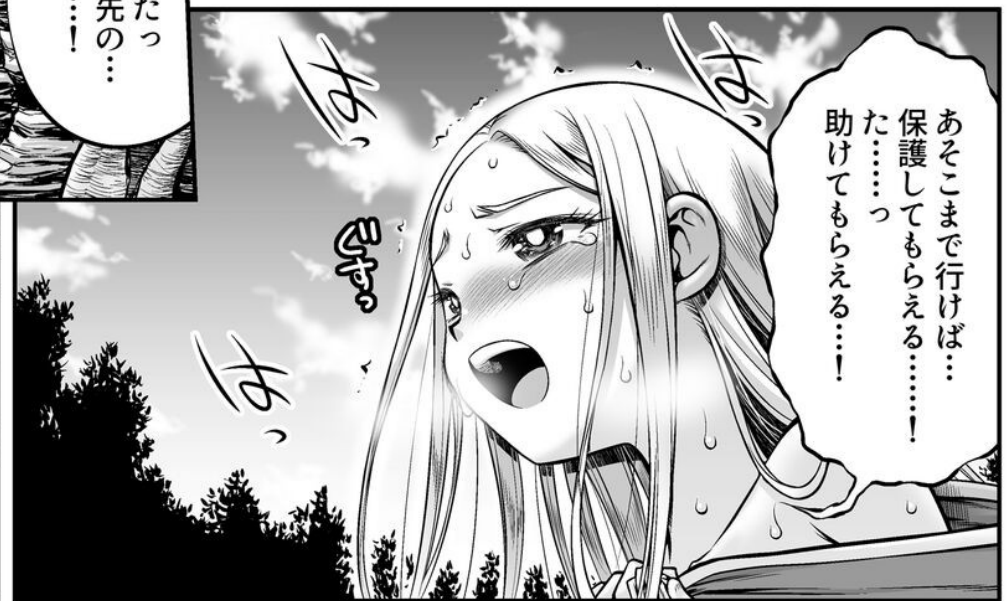
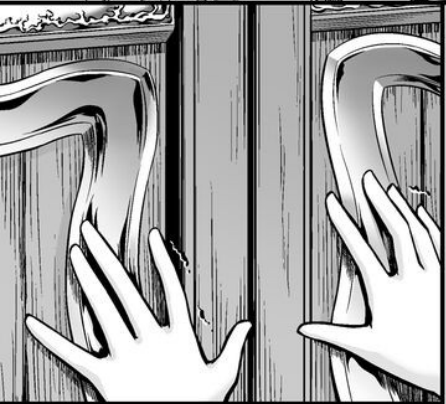
身体が…  
おかしい…



見えたっ  
巡礼先の…  
聖堂…！

あの魔族が戻って  
きませんように…  
なにも起こり  
ませんように…  
どうか…どうか  
ご加護を…！

女神様…  
どうか…聖堂へ  
たどり着くまでの  
間だけでも…  
お護りください



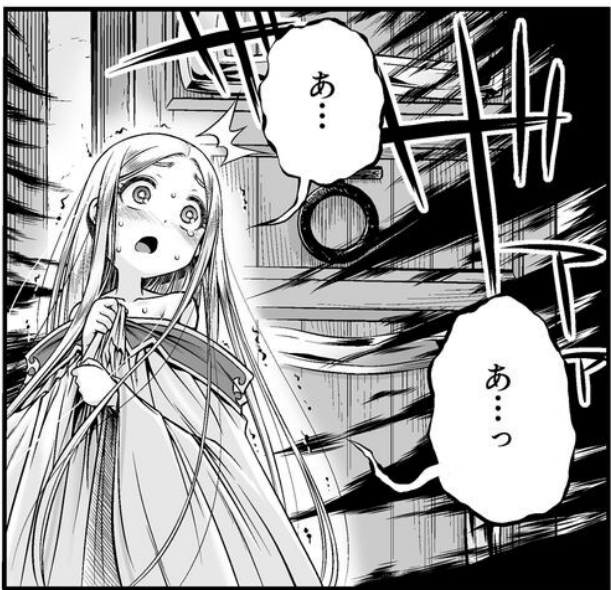
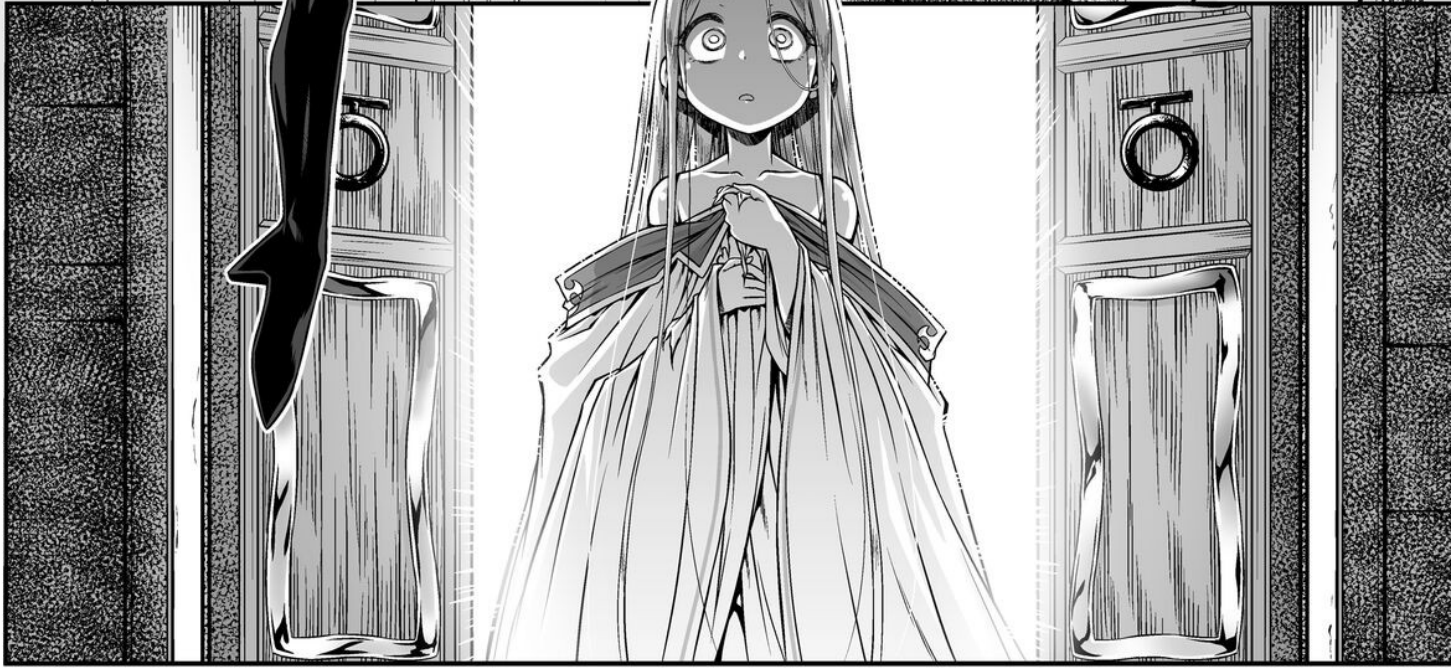
あそこまで行けば…  
保護してもらえる…！  
た…！  
助けてもらえる…！





あら

おかえりなさあい♡  
遅かったわね



あ...

あ...



残念だった  
わね

出口がっ

でっ出口っ



え.....?

ここは私が創り出した空間の中…  
最初から逃げ場なんてどこにも  
なかったのよ♡

あ…

気がつかなかった？

聖堂に参拝する人と  
一人もすれ違わなかったこと

あ

あ

ああ…



鳥の囁きも

虫の声も

何も聴こえない  
ことにも  
気づけないなんて

よほど  
必死だったのね



私は  
怒ってなんて  
いないわよ

必死に身体を  
引きずっている貴女  
可愛らしかったわぁ♡

何を謝って  
いるのかしら？



あら...

こちらに  
いらっしゃら

また可愛がって  
あげる♡



私...私...もう  
助からないんだ...

あ...

あは...っ

今度こそ...

気が触れるまで弄ばれて  
死ぬまで犯されちゃうんだ...

えへへ...

ニョロ...

キョ

キョ

キョ

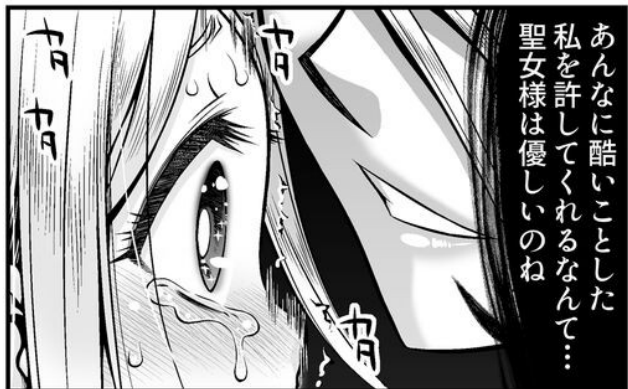
へたん、



ああ…可哀想に  
すっかり怯えちゃって…  
昨日は酷かったものね

昨日はね  
私も貴女の力が  
怖かったから

だからつい  
やりすぎちゃったの  
ごめんなきい



あんなに酷いことした  
私を許してくれるなんて…  
聖女様は優しいのね



お礼に

今日は私も  
優しくして  
あげる…♡

ひい…ッ



許してくれる  
かしら…?

はひっ  
はひい…っ



そんなに  
怯えないで  
安心して

昨日みたいな  
乱暴はしないし

術も媚毒も  
使わないから



う…う…う…  
ぐすっ

えぐ…っ  
ゆ…許して…  
ください…っ  
もう…もう…っ

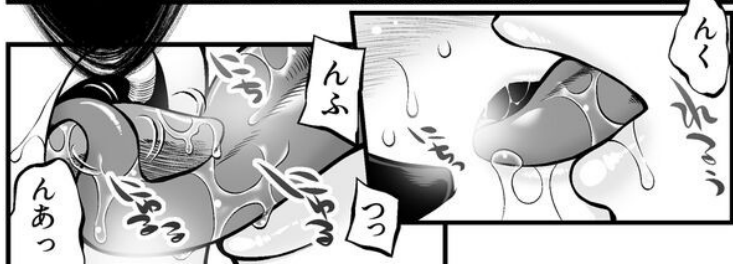
またあんなにされたら  
死んじゃう…死んじゃう…っ

どうか…どうか…

おねがっ  
しま…っ  
えうう…っ  
ひっくっ



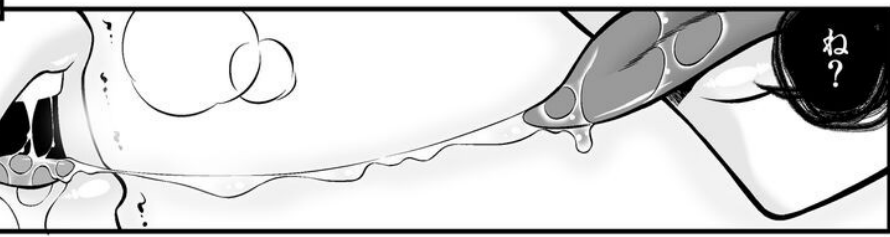
そんなものなくても  
とろとろに蕩けさせて  
あげる…♡



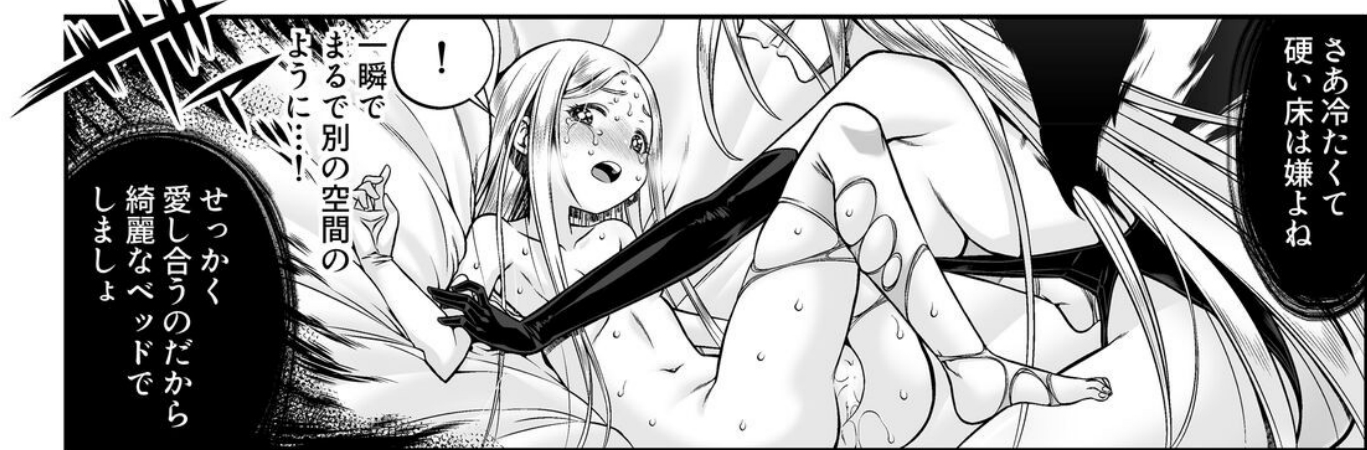
んく  
れん

んふ

んあっ



なんとも  
ない  
でしょう?  
念のため  
浄化でも  
してみる?



せつかく  
愛し合うのだから  
綺麗なベッドで  
しましょ

さあ冷たくて  
硬い床は嫌よね



でも...  
私の力では  
もうどうしたら  
いいのかわからない  
下手に抵抗をして

どうにかして  
逃げる糸口を  
見つけ出さないと...



お互い全部  
脱いじゃって  
裸の付き合いを  
しましょ♡

あ  
や...いやっ  
気持ちいいのっ  
もうやあ...

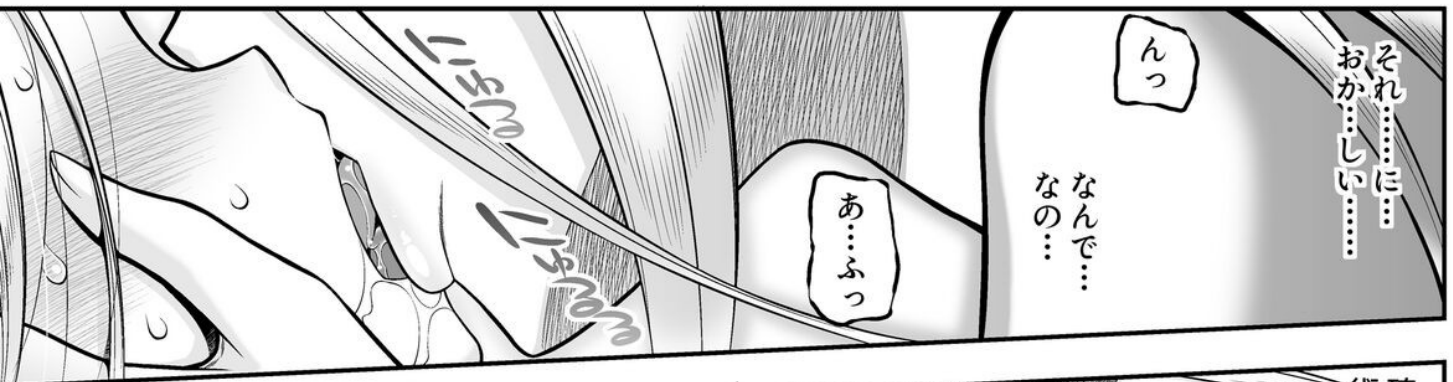
もし怒らせてしまったら

ん？

どうかした？

びびり……また……





期待…なんて…

もう気持ちいいのは  
嫌…です…

そんなこと言わずに  
素直になりましょうか？

ひっ

嫌…なのに…

何故…こんなに  
触られるのが…

や…っ

っ

っ

んっ

アッ

くう

心地よく感じて  
しまうの…

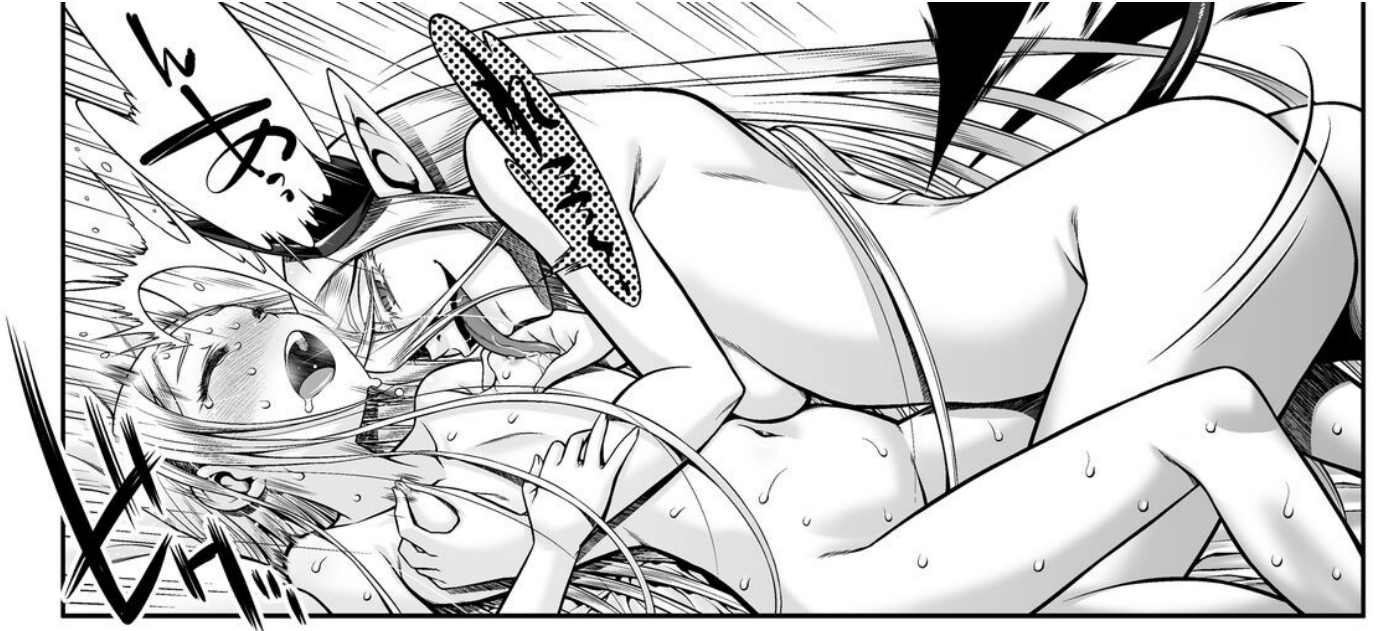
ん

ん

んう…っ

ん

ん



ここは私の  
創り出した空間の中  
誰も見てやしないわ



それじゃダメよ  
昨日と同じじゃない

か…快楽に  
身を委ねるなんて…  
できませんっ

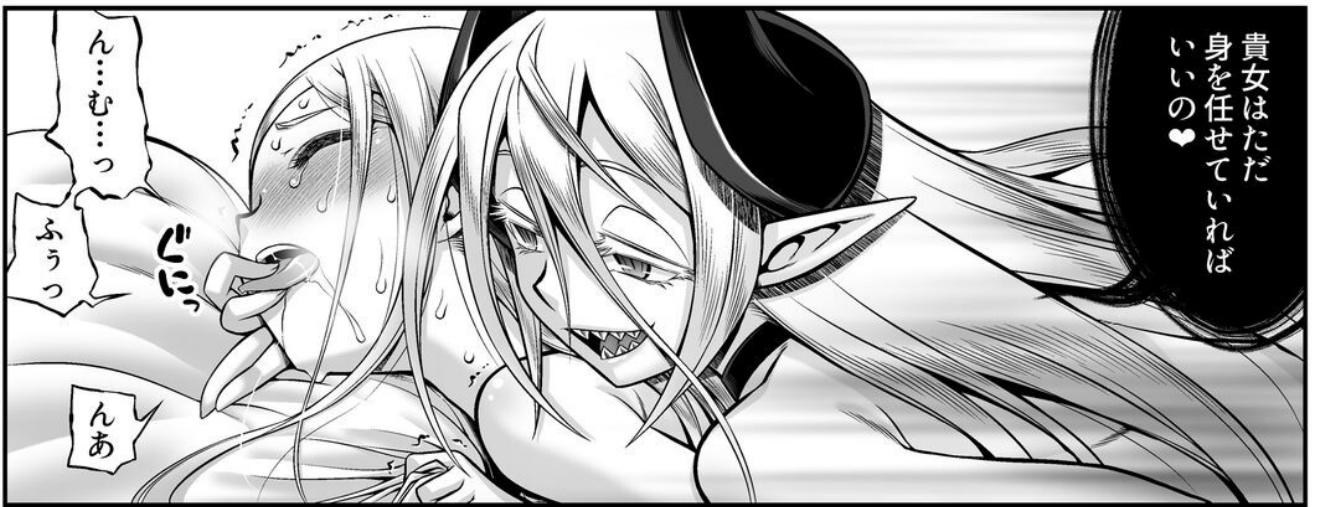
あら？  
気持ちいいのを  
我慢  
しちゃうの？

うう…



ふふっ  
可愛い声♡

ぎゅっ

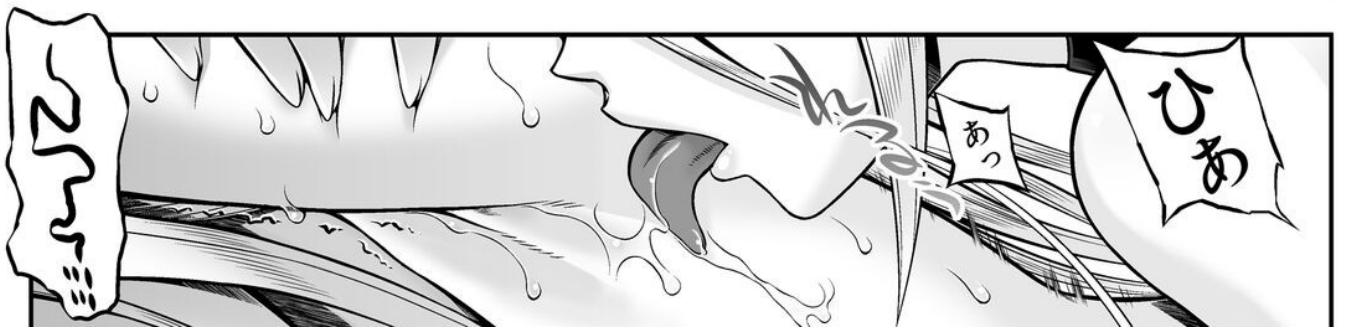


貴女はただ  
身を任せていけば  
いいの♡

ん…む…っ

ふうっ

んあ



ひあ

あっ

んあ



なぜ…なの…

昨日みだいに  
激しくされて  
ないのに…

腋胸…も…

ふっ

ふう

んふっ

ん

んくっ

…んで…

すごく  
敏感になっている  
ような…

なん…ん…っ  
なん…でえ…

な…ん…でっ

ふっ  
ふっ

「こんなのおかしい」

なんれっ

「術もかけられていない媚毒も全て浄化したはずなのに」

「なぜこんなにも感じてしまうの」  
「ってところかしら？」

や

ん

ん

んくっ

むっ  
むっ

んあっ

むっ  
むっ

うう

ひんう

それはね  
今の貴女の身体は  
衣擦れひとつでも  
感じてしまうくらい  
敏感になって  
しまっているから

ひ

あ  
あ

きっかけは私の術や毒でも  
高まってしまった性感は  
他でもない貴女自身の  
ものだからよ

そんな...

意思でどう  
抗おうとしても  
身体はもう快感を  
受け入れてしまっ  
ているってことね

そんな.....っ

っ

う...そ

うそ

うそ

しゅ  
しゅ

しゅ  
しゅ

私の身体：  
もうおかしく  
なつてしまったの…？

は、は、は、  
この魔族から  
逃れても  
ずっとこんな  
身体なの…？

切なそうな表情  
しちゃって♡

それじゃあ…

そんな…はずない…っ  
きつと…きつと  
元の身体に戻るっ  
…でも…でも…

どこを触られても  
気持ちいい…  
全然堪えられない…

気持ちいいの全然  
とめられないよお…っ

じゅわん♡…♡

あ

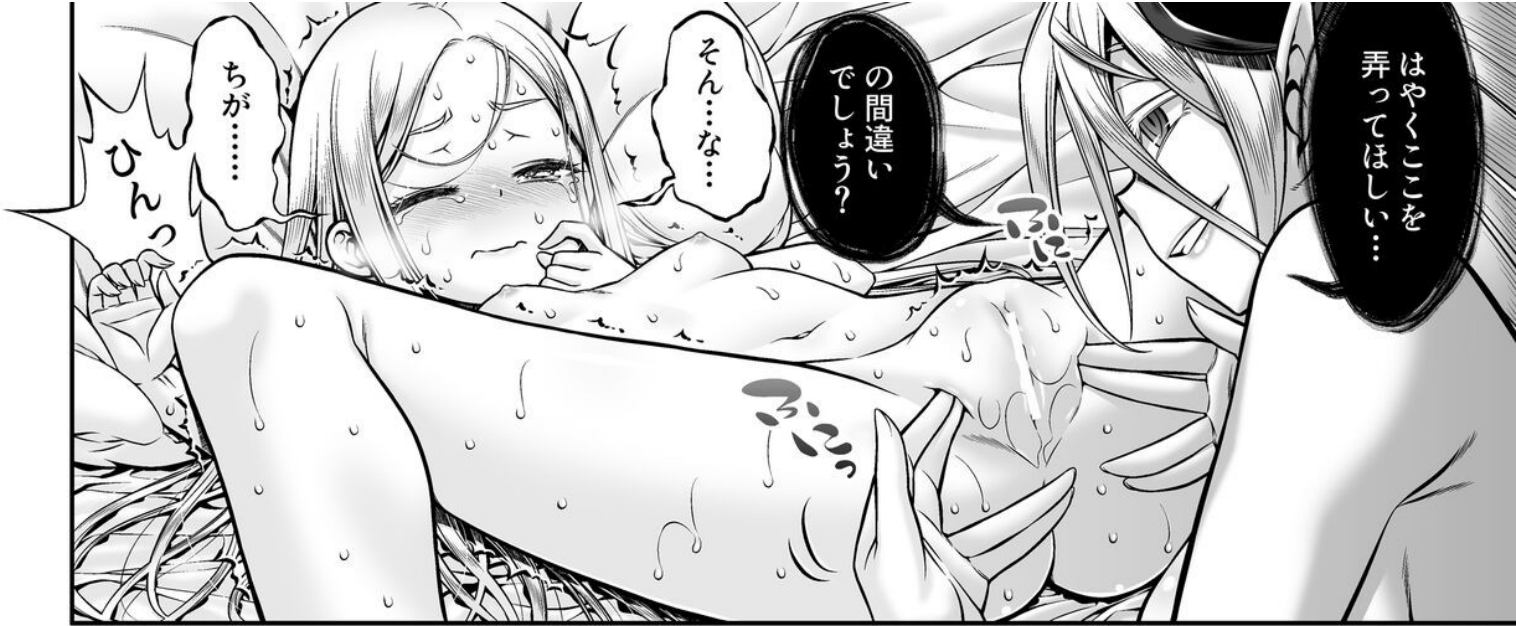
あ…

ふふっ

くさるさる

んっ♡またよ…♡





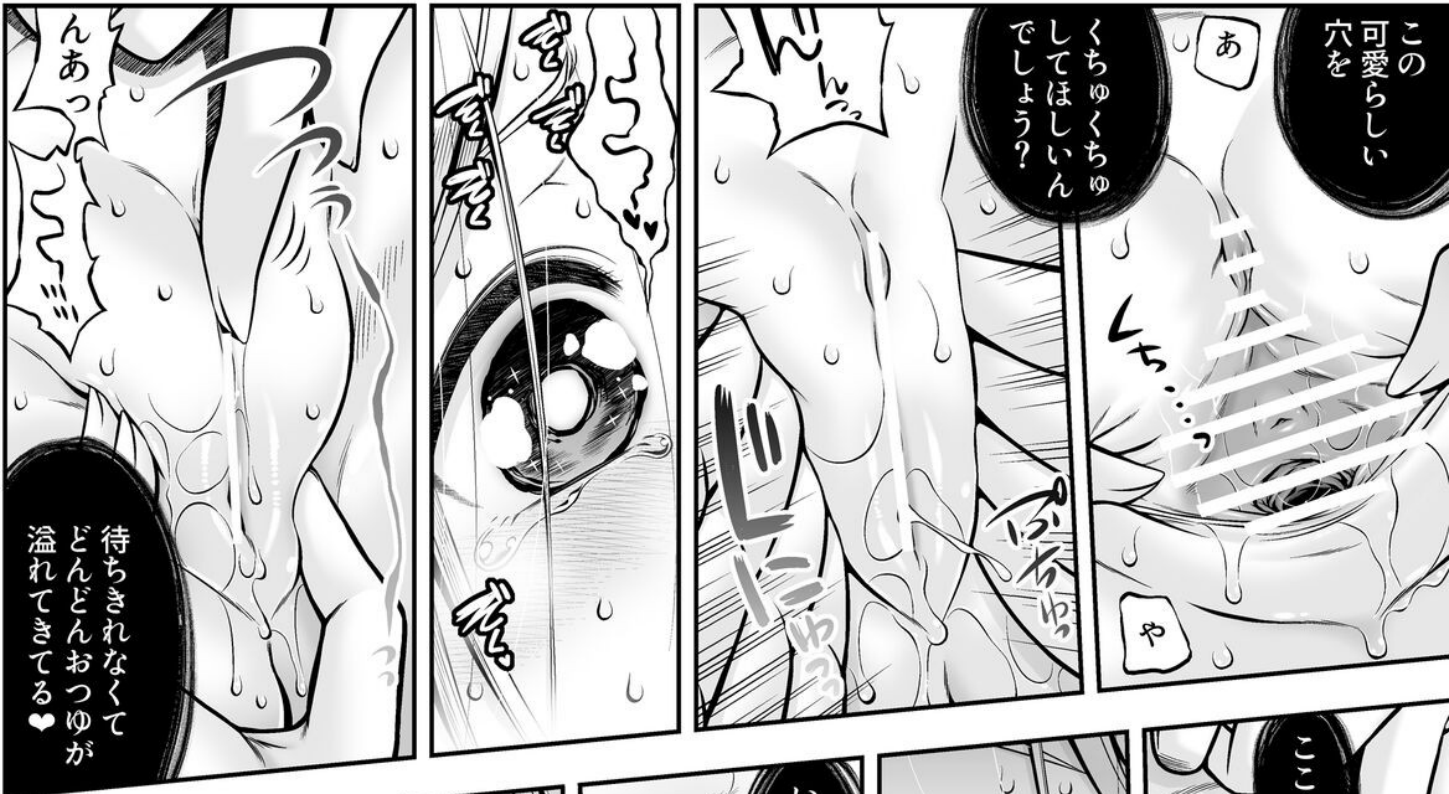
はやくここを  
弄ってほしい...

の間違い  
でしょう？

そんな...

ちが...

ひんっ



この  
可愛らしい  
穴を

あ

くちゅくちゅ  
してほしいん  
でしょう？

や

はなはな



はなはな

はなはな



待ちきれなくて  
どんどんおつゆが  
溢れてきてる♡



んん...

もっと奥まで  
弄ってほしい？

いらなの？

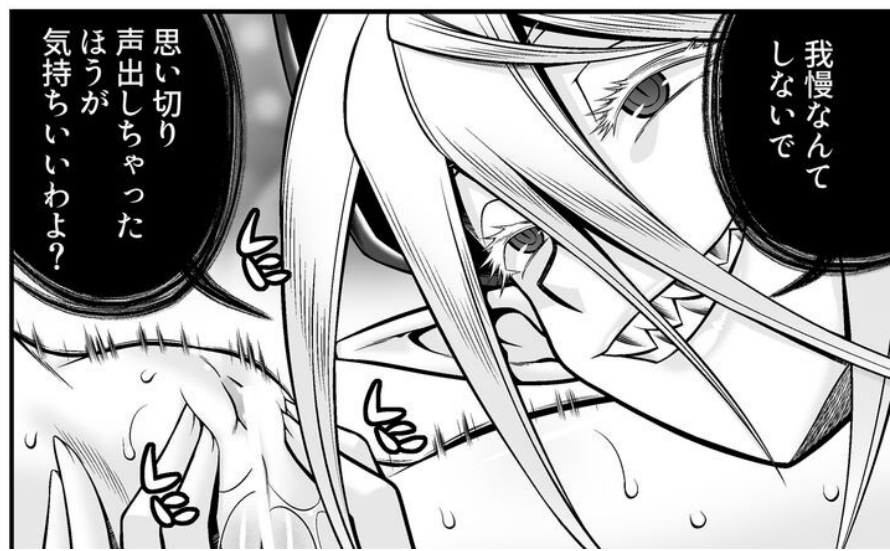
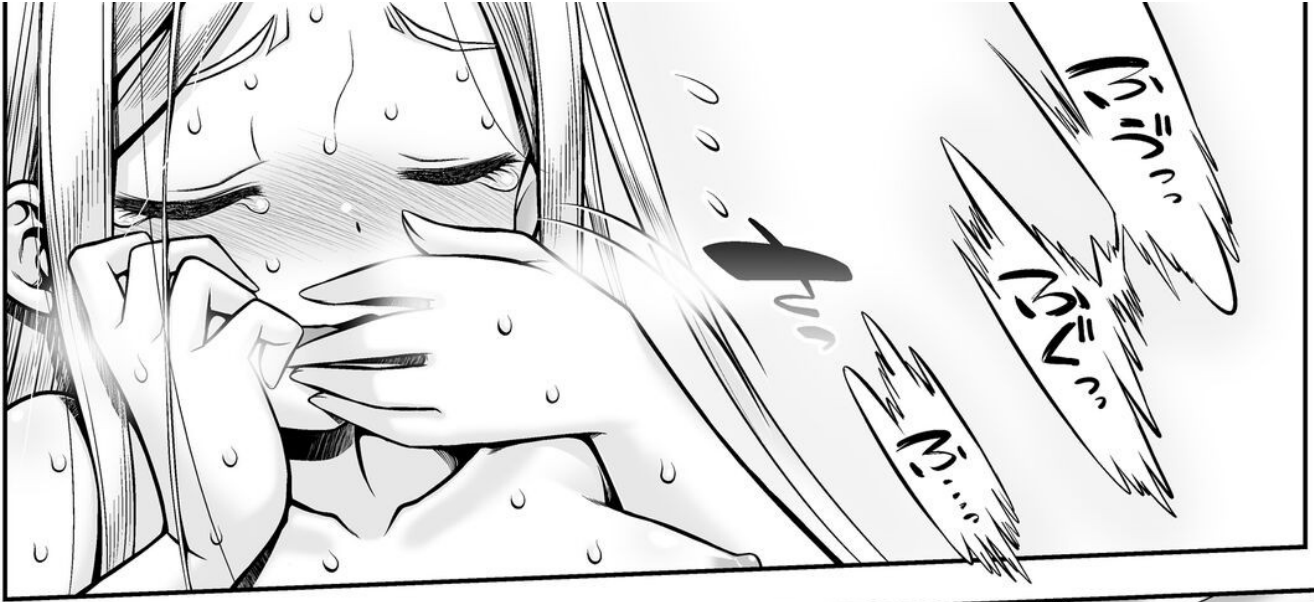
あ...

なーんてね

んんん

意地悪  
しちゃった  
かしら？









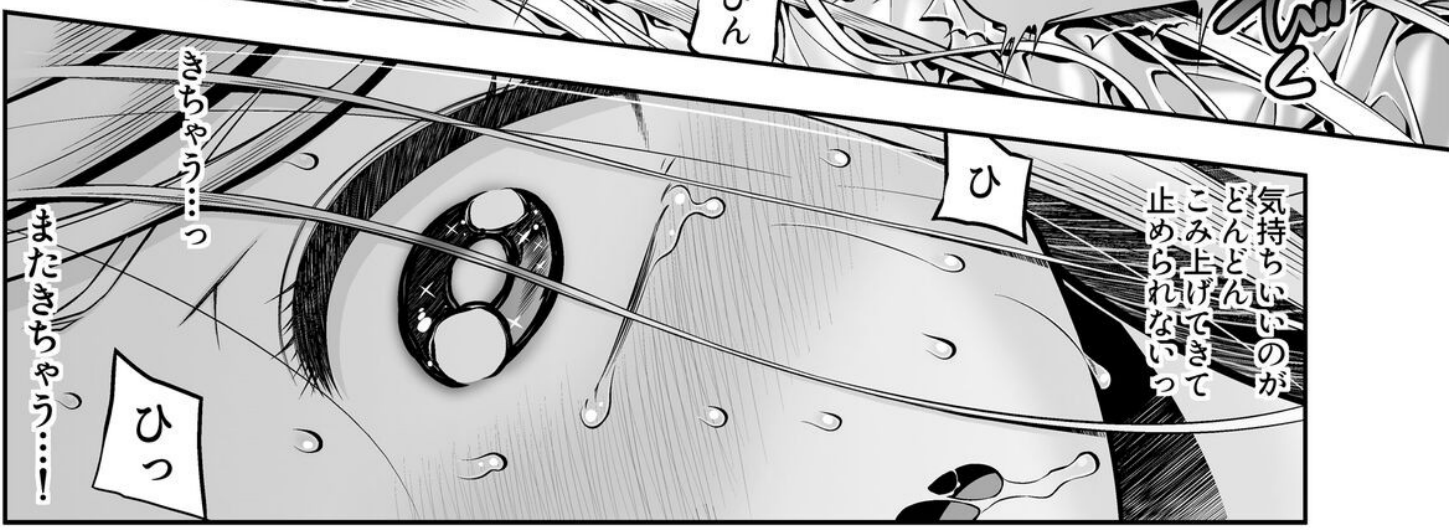
うふふふ  
我慢できずに  
甘ったるい喘ぎ声  
漏れちゃって  
いるわよ

可愛い♡

やっあ♡

あ

すっかり  
雌の表情かお  
できるよように  
なっちゃった  
わね



気持ちいいのが  
どんどん  
こみ上げてきて  
止められないうっ

ひ

あざあざうっ...

またあざあざうっ...!

ひっ



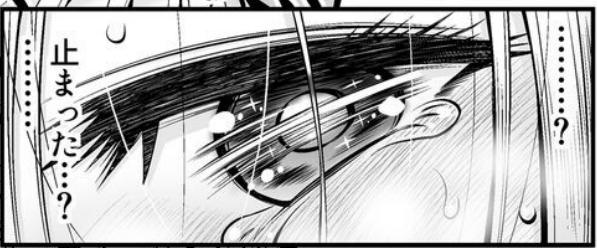
昨日...何度も...  
何度も耐えようとして

結局一度も  
耐えられなかった  
あの感覚...

絶頂がきちゃうー！



ちゅっ...



止まった...?

.....?



そしてその魔力は  
性的興奮で  
こうして体液とともに  
滲み出てくる



ねえ...  
女神の加護は何故  
子宮に宿って  
いるのだと思う?

な...ぜ...?

あ...  
な...

それはね  
魔力の巡りは  
性とも強く結びついて  
いるからよ

貴女の加護は  
器としての高い資質と  
何より澄んだ魂に  
引かれて宿ったもの



快楽に悶え  
絶頂を繰り返すたびに  
より色濃く滲み出す...

わたしたち  
淫魔はそれを  
啜って糧にするの



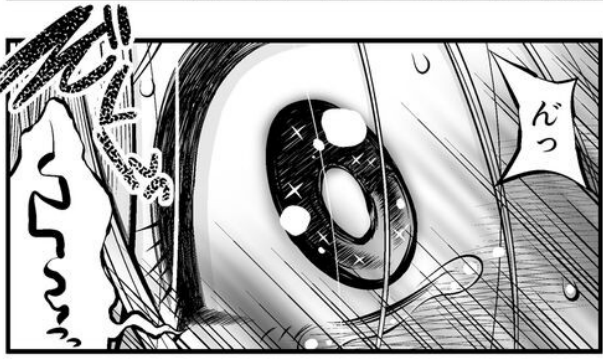
とっても美味しいわよ  
貴女の愛液まりよぐ

貴女たち人間は  
勘違いしている  
ようだけれど

貴女は  
女神の加護が  
宿っているから  
聖女なのではない

限りなく清らかで  
澄んでいて...

聖女たる魂と器を  
持って産まれたから  
加護が宿ったのよ



その聖なる乙女の  
蜜の味...

もつとご馳走して  
ちょうだい♡



ん...  
美味し♡

やめ...て  
くだひゃいっつ

おかし...く  
なっぢやうっ

そこっ  
だめえ...っ

それだめっそれっ  
やめ...くたさ...

んあ  
あ

そこおっ♡  
だめえええ♡

あ  
だめ

やっ  
あ

やあ

あ  
あ

あ  
あ

ん  
あ

あ  
あ

あ  
あ



はっ  
腰っ  
びくって  
なっちやうう……っ

お股っ  
おかしく  
なっちやううっ



そこっ  
どこのことを  
言っているの  
かしら？

いまっ  
舌で  
ぐりぐり  
してるっ  
そこだめっ  
だめええっ

そこ…  
ひ…あっ



あ…  
あ  
あ

あ…  
あ  
あ

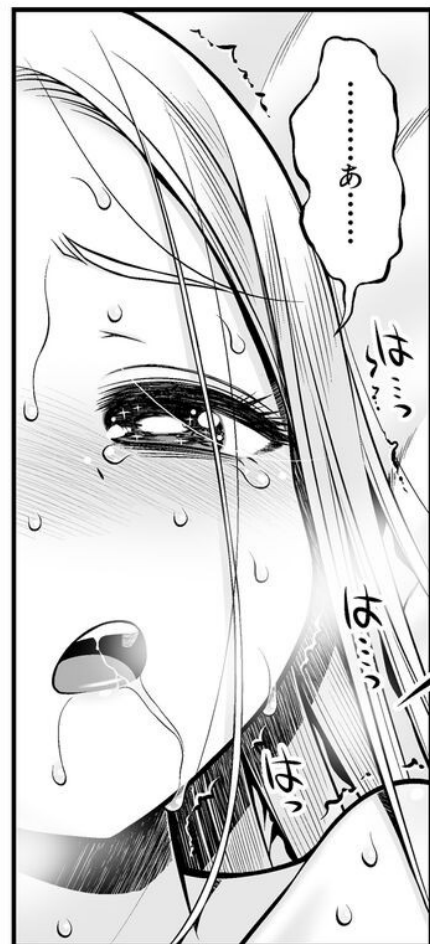


い…一緒…に…？

貴女見てたら  
私も濡れて  
きちゃった♡  
次は一緒に  
気持ちよく  
なりましょう？

えええっ

こうして…  
お互いの  
イイところを  
擦り合わせるの



あ……

あ……



ふふ…それじゃあ  
仕方ないわね

優しくするって  
言ったものね

あ……

どーお？

悪くないでしょう？

うあ……あ……

んああ

あ

あ

あ



は……

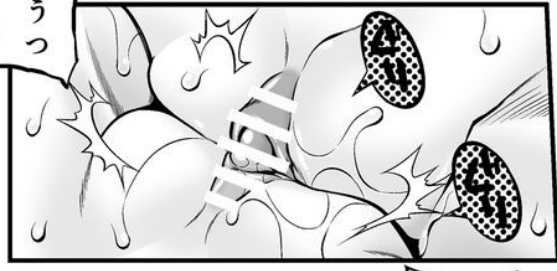


あ

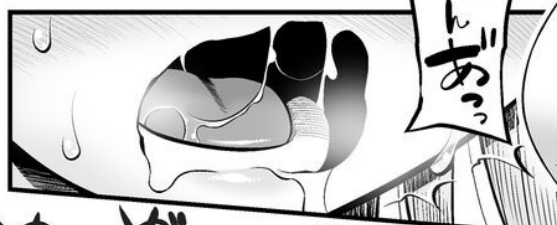
ん……



う



んううう



んあう

ふふ……  
夢中に  
なっちゃって♡

あ  
あ

あ……♡



あ

あ……あ

あ♡

あ

ふあつ

あ

あ

こんなのつ  
だめ……ええ

あ

あ

あ

あ

だめっ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

ぬち

ぬち

ぬち

ぬち

ぬち

ぬち

ぬち

ぬち

ぬち

ぬち

ぬち

ぬち

ぬち

ぬち









あらあら我慢できずに  
指動いちゃってるわよ♡

それじゃあ  
守るといふより  
オナー  
自慰ね

ぶっぶっ

ぶっ

でもまだ  
下手っぴ  
みたいだし



ん

ん

ぬち...  
ぬち...  
ぬち...



手伝ってあげる♡

ひあっ

あ...だっ  
ダメツ

弄るのは  
臆じゃないから  
安心しなさい

あ

やっ



…って  
聞くまでもないか  
この反応♡  
腰浮いちゃって  
お手々がお留守に  
なっちゃってるわよ

クリ  
気持ちいい？

んひいッ

あ

おお

ひあッ

んあ

あー



ああ…本当は  
泣いてねだるまで  
焦らしちゃう  
つもり  
だったけど…

私も昂ぶって  
きちゃった……♡

せー背中に  
あたっているこれ…  
これ……っ

びしょ

びしょ

私……また  
犯されちゃう……!  
犯されちゃうんだ……  
犯されちゃう……のこ……

貴女も  
そろそろ  
ここに

なのに……  
なぜ……

ねえ……

なんでこんなに  
どろどろして……

身体が……  
熱くなるの……っ

おちんちんが  
ほしいんじゃない？

っ!!!

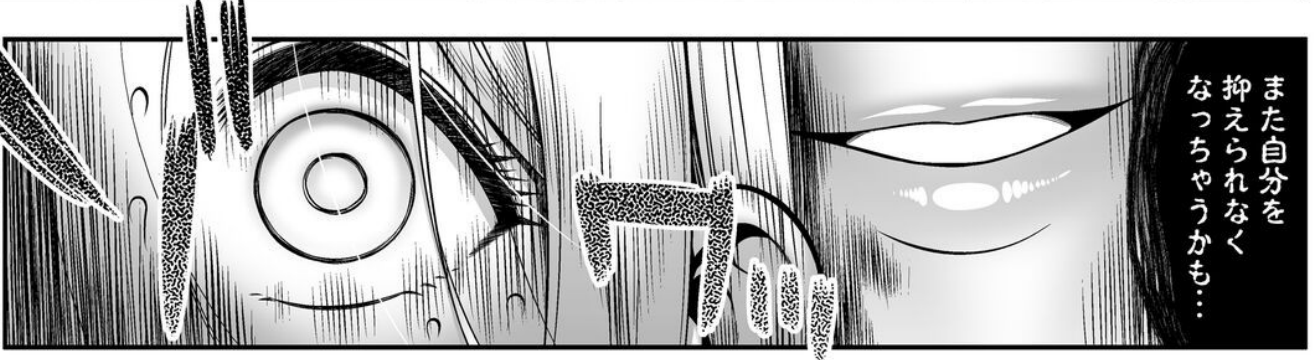
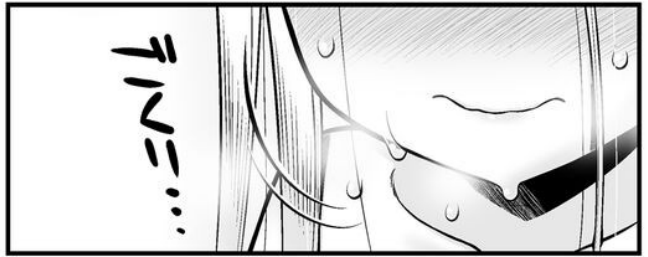
気づいて  
いるんでしょう？

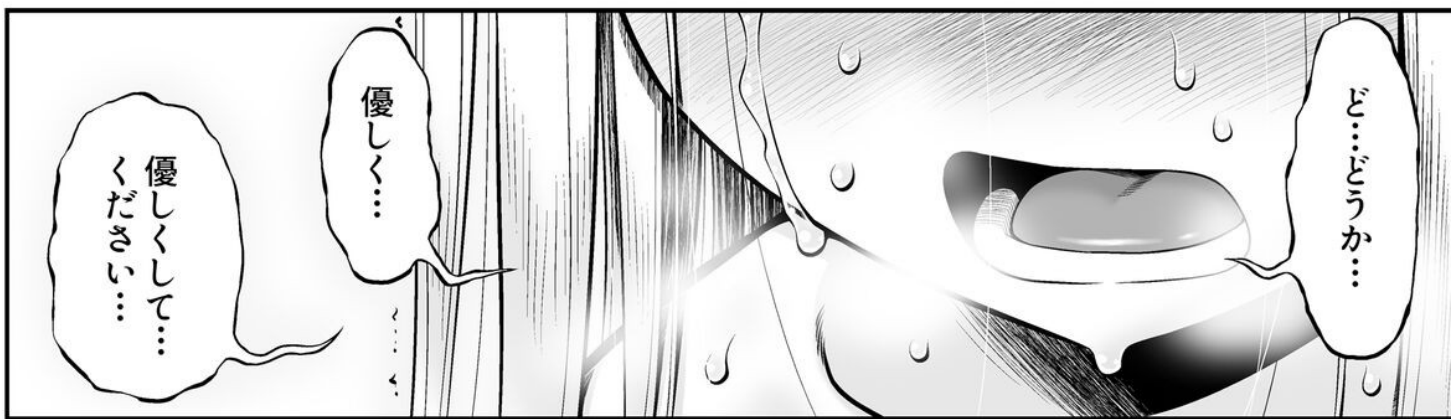
さっきから貴女の  
背中に当たっているこれ……  
あなたに挿れたくて  
こんなに脈打っちゃってる

これが貴女の膣を  
何度も往復して  
擦られるのを  
想像してみて？

ヒダをひとつずつ  
丁寧に捲られながら  
一番感じる場所を  
ぐりぐりされるの……

気持ちいいわよお♡





嬉しい♡  
聖女様に挿入のお許し  
もらっちゃった

うう…っ

うんと気持ちよくして  
あげるわね♡

ゆっくり  
挿れるわよ

は…っ…









言ったでしょう？  
貴女はもうエッチな  
身体なの♡

そんな……っ  
嘘……うそお……

それに今は  
昨日みたいに  
無理やり快感を  
与えているんじゃない  
なくて

貴女に呼吸を  
合わせているからね♡

貴女の身体が  
欲しがっている所に  
欲しいタイミングで  
欲しい強さで刺激を  
あげているからよ

そんなっ 身体ッがっ  
欲しがってる……なんて

そんなあ……っ

ダメになっ  
ちやう……

わたじのがらだ……  
ダメになっちやうだ  
よお……

いいじゃない  
気持ちいいなら  
ダメになっちやえば♡  
ほら逃げよう  
としないの

だめっ

こんなの  
だめえ……っ

わらひっ  
せいじよなのにつ

もつともつと  
よくして  
あげるから  
ダメになっちやい  
ましよう？

こんなの  
だめなのにいっ

ぎもちよぐ  
なっちや  
だめなのにい

あ……っ

んああ♡

はっ





あ……っ  
なんで……  
また……っ

また……あ……

もう……少し……  
でえ……

さあ  
なんでだと  
思う？



うふふ  
お預けされた  
子犬みたいな  
顔しちゃって♡

可愛らしく  
おねだりできたら  
最後まで  
してあげるわよ？

そん……な……っ



そん……な……こと……  
できません……っ

あらどうしてえ？

貴女が従順に  
しているのは  
逃れるチャンス  
を待ったためでしょう？

そのためなら  
媚びたフリくらい  
女神様もお許し  
くださるわよ

んんっ

だん

あ

あ

あ

そん……な……  
全部……  
バレている……っ

んあ

ね？



ほら

この可愛らしい穴を  
自分で広げて  
おねだりする「フリ」を  
するだけよ

簡単なこと  
でしょう？

う...

うら...っ



.....あ...っ

たとえ狙いが  
全てバレていても  
今は従うしか  
私にはできることがない...

ど...  
ど...  
どうか.....

だから...  
これは仕方ないんです...



う...っ

よく  
できました♡

だから...だから...  
どうか  
お許しく下さい...



あ...

挿れるわよお  
お待ちかねの...

くちや

お

あ.....

ち

ん

あ

ち

ん

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あらあら  
腰カクつかせちゃって♡  
今にもイッちゃいそうね

でもだめよお  
まだ我慢しなくちや

あひ

あ

限界まで耐えなきや  
女神様に言い訳できないし…

はひいっ

ギリギリまで  
堪えたほうが  
気持ちいいから…

ねっ

こんな  
こんなのおっ♡  
我慢できなひ  
よおおおおっ

あら大丈夫よお  
私加減は上手だから♡

ほら...こうして  
イかないギリギリを  
責めることも  
できちゃうし♡

んあっ

あ

うう...  
ぐす

また...  
ゆっくり...

そんなあっ

ひ

ひんっ

ううう...っ

どーお?

あ

おまんこ  
気持ちいい?

うう...

グス

おま...?

お...

貴女のこの  
おちんちんに  
一生懸命吸い付いて  
放そうとしない  
エッチな穴のことよ

ひ...

はひ

あ...

うう...

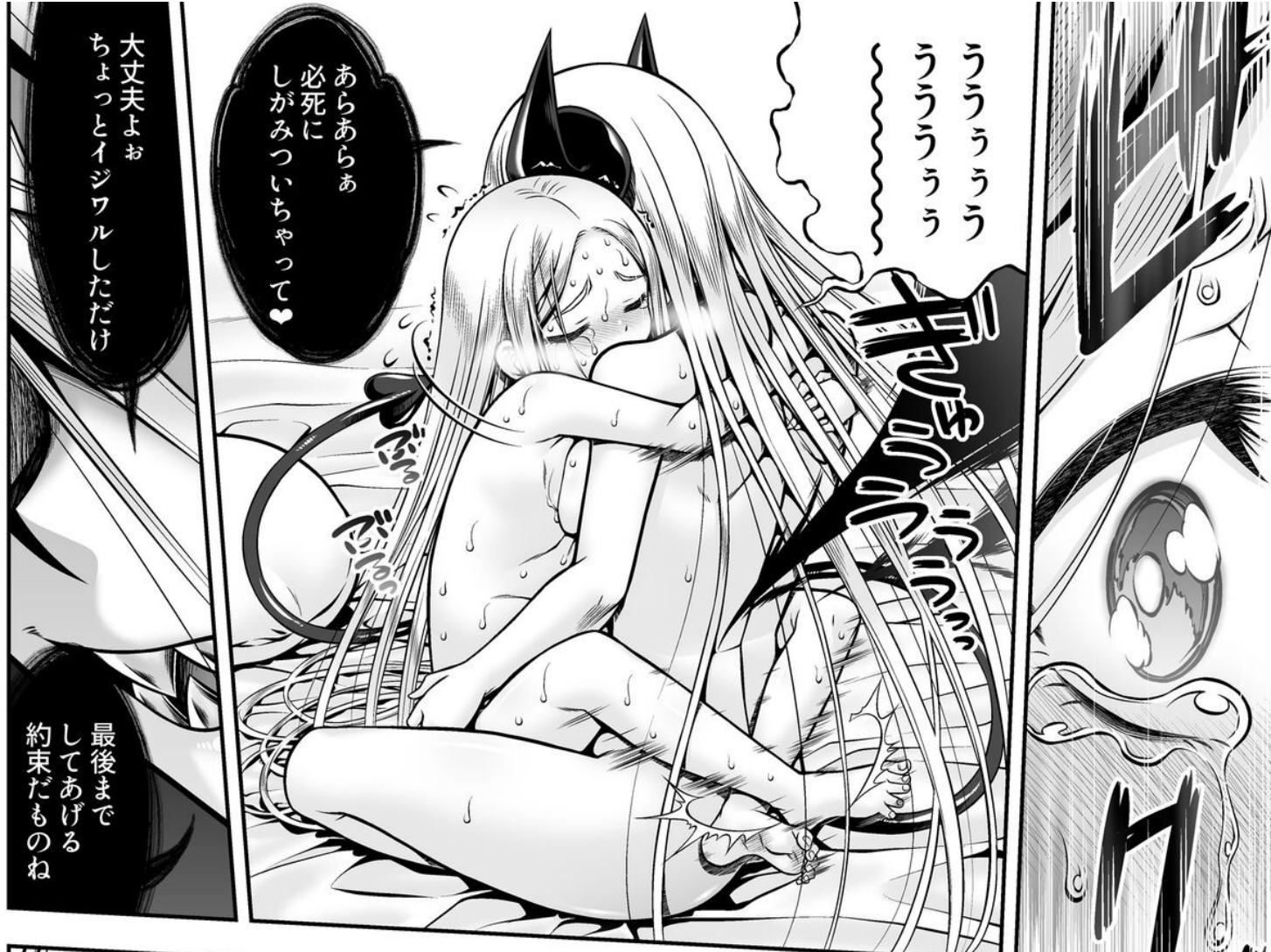
よくないなら...

どうなの？

うう...

抜いちゃおうか？

ぐす



ジュウジュウ  
ジュウジュウ  
ジュウジュウ

あらあらあ  
必死に  
しがみついちやって

大丈夫よお  
ちよつとイジワルしただけ

最後まで  
してあげる  
約束だものね

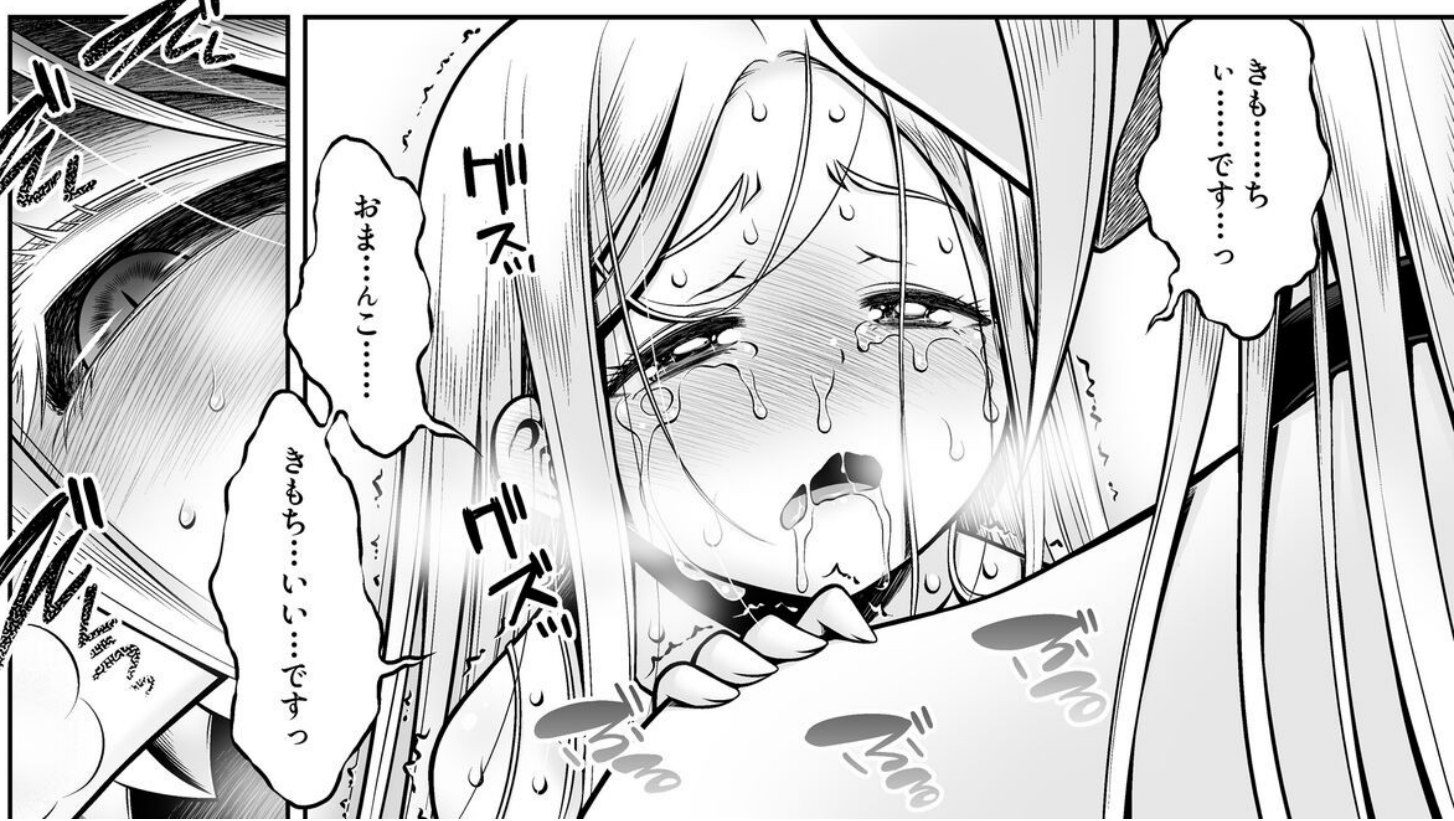


.....え

.....え

.....えす

ん？



ジュウジュウ.....ジュウジュウ

おま.....ん.....

ジュウジュウ.....ジュウジュウ

ジュウジュウ

ジュウジュウ



ジュウジュウ.....ジュウジュウ





そーお?

だ...だから...

最後...まで

貴女がいいと  
言うのなら  
遠慮なく  
出しちゃおう  
かしら

ね

カクカク

バグバグ

カクカク

カクカク

カクカク

あはっすっごいっ  
全然止まらないっ



あ...

はああ.....♡  
普段よりいっぱ  
出ちゃった...♡



♡

♡

♡







聖女じゃない……

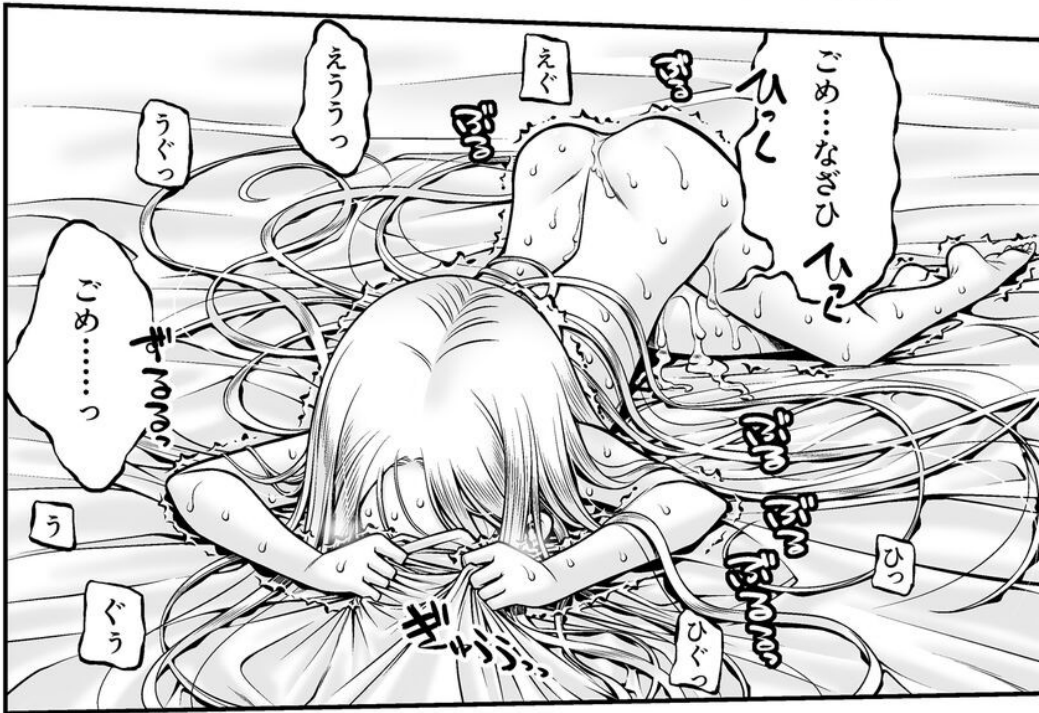
もう……



…誰に謝っているの？

えっ……ぐ

えうっ



ごめ……なぎひんこ

えううっ

うぐっ

ごめ……っ

う

ぐう



女神？

貴女に期待をかけている人たち？

それとも昨日までの純血を守っていた清らかな自分自身かしら？



いいこと教えてあげましょうか？

今の射精も  
昨日あれだけ注いだのも  
私の体液は一滴も  
貴女の子宮へは  
届いてないのよ

ん…っ  
あ

なぜだと思う？

はっ

な…

ぜ…

ん  
ん  
ん

それはね  
貴女を護る加護は  
砕いたけれど  
加護の本体は  
まだ健在だから…

え…  
めが…み…さ…  
か…い…

だから本体の宿る  
子宮に侵入するには  
貴女に心の底から  
淫魔を受け入れてもらう  
必要があるの  
でなければ永遠に  
入り込むことはないわ

ほ…本当…に  
まだ…？

どう？

安心した？

ん  
う  
んううう

貴女がこの先  
快楽に溺れることなく  
清らかに貞淑に生きることが  
できればもしかしたら  
多少は加護も回復  
するかもしれないわね

あ  
や

自慰も  
覚えちゃって  
おちんちんを  
ねだるほど  
エッチ大好き  
になって

もっ  
ん  
だめ

誰よりも敏感に  
なってしまったその身体で  
そんなことが  
できればだけれど…

あ  
ん  
ん  
ん

ん  
ん  
ん

それに…  
よく考えてみたほうが  
いいんじゃないかしら？

女神の加護は  
貴女をあつさり  
見捨てたくせに  
今も平然と  
自分だけを  
護り続けている…  
ということよ

は…っ

それ…は

ん  
あ

あ

ひどい話よねえ

ちが…

理由…が

それに…  
たとえ加護が  
戻るとしても  
それは先の話

貴女の周囲の人たちは  
そんなことを許し  
待ってくれるかしら？

いじ…  
らない…で…

んうっ

魔族にかどわかされ  
純潔を散らし  
快樂の味を識ってしまった  
堕ちた聖女を

価値が無くなったと  
判断されて  
神殿を追放…  
酷ければ処刑されて  
しまうかも…

それとも貴女に  
あんな欲望を  
抱いていた  
人たちですもの

監禁されて  
慰み者に  
されてしまうかも  
しれないわね…♡

それでもまだ  
帰りたい…？

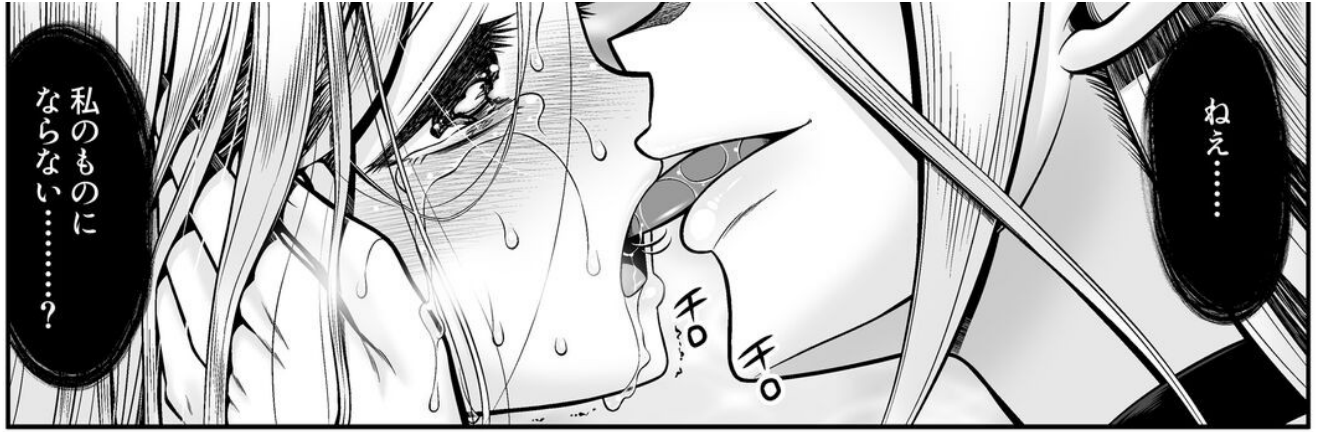


わ…私…

わた…し…

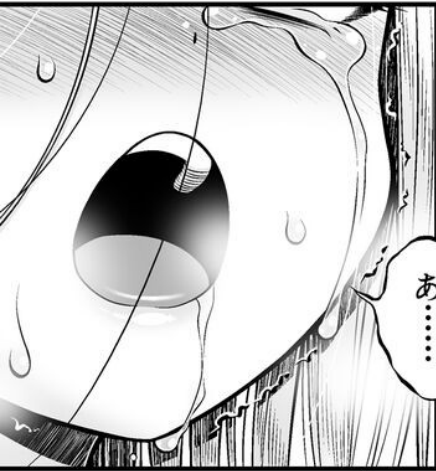
ん

あ  
あ

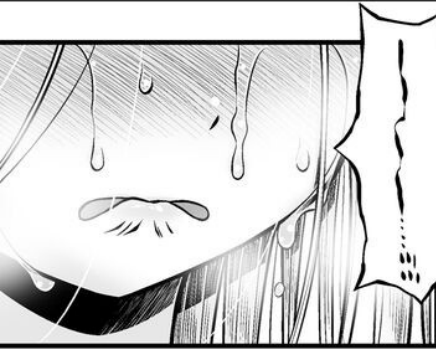


ねえ……

私のものになら……ない……？



あ……



ああ……



それ……でも……



私……貴女のこと  
すごく気に入ってるの

私のものになって  
毎日愛し合いましょ……う？

そうすれば  
夢のような快楽をあげる



まだ……  
お役目……を……  
果たすことが  
できるかも  
しれないのなら……

やっぱり  
この娘……

私は……

私……は……

とっても  
私好み♡

それは本当に  
貴女自身が望んだ  
ことなのかしら？

え……？

そ…それは…

私には貴女が  
与えられた  
聖女という役割に  
従っているだけのよう  
に見えるけど

ただ女神の加護が  
宿ったというだけで

他人に押し付けられた  
聖女という役を演じて  
いるだけではないの？

思い出してみて…

女神の加護なんてものが  
宿ってしまったばかりに

突然  
知らない大人たち  
ばかりの世界に  
放り込まれて

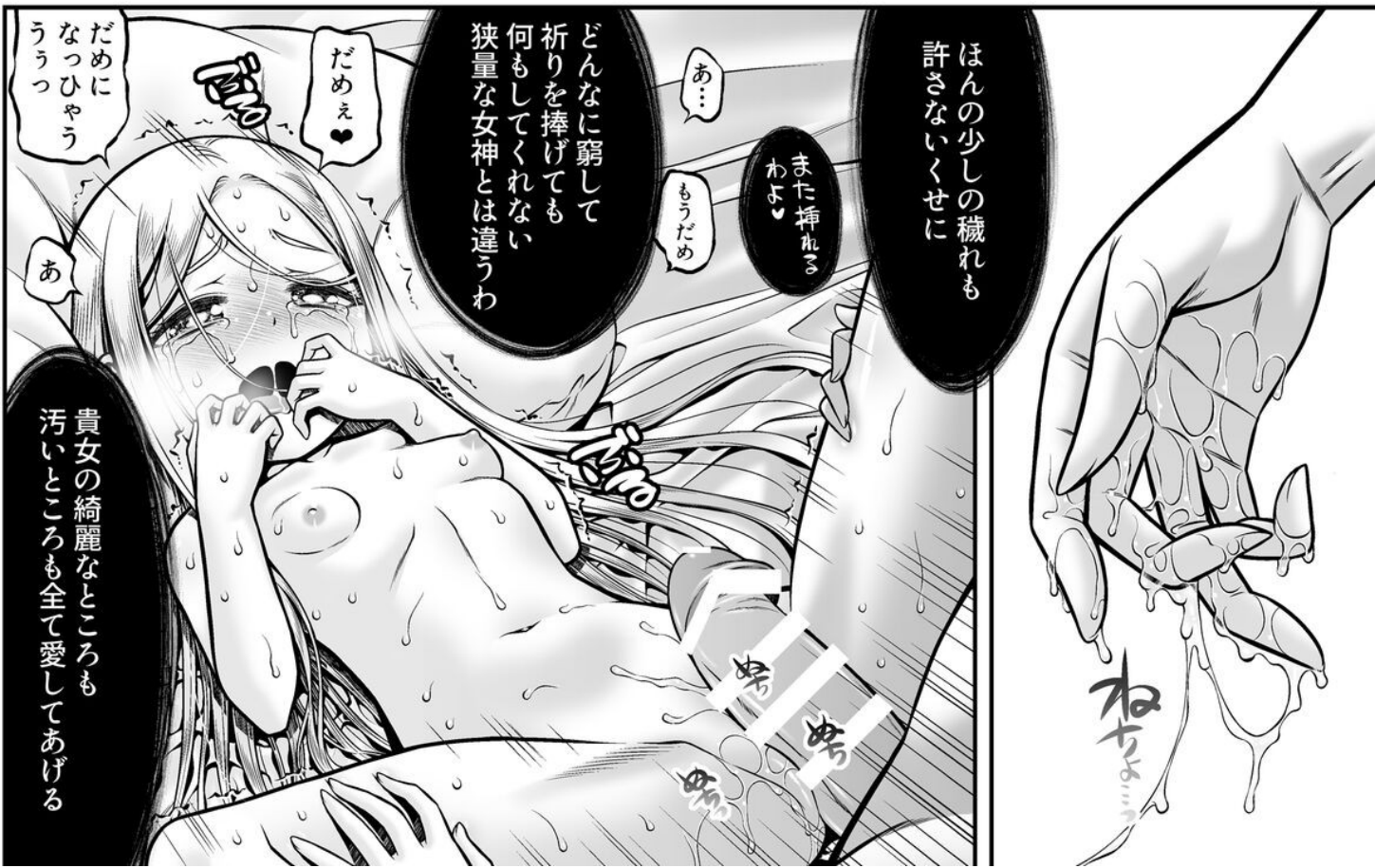
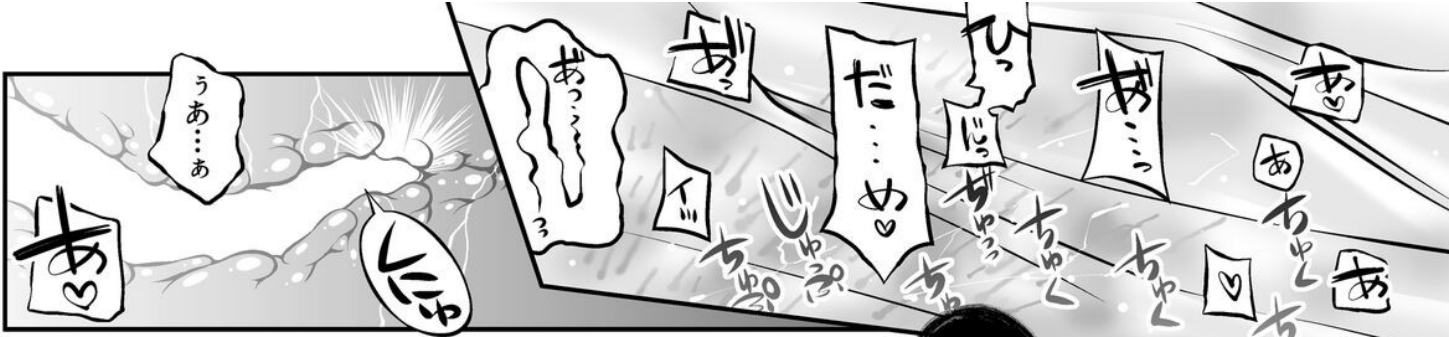
不安ではなかった？

怖くなかった？

幼いうちに親から  
引き離されて  
悲しくなかった？

誰にも  
甘えることもできなくて  
寂しくはなかった？



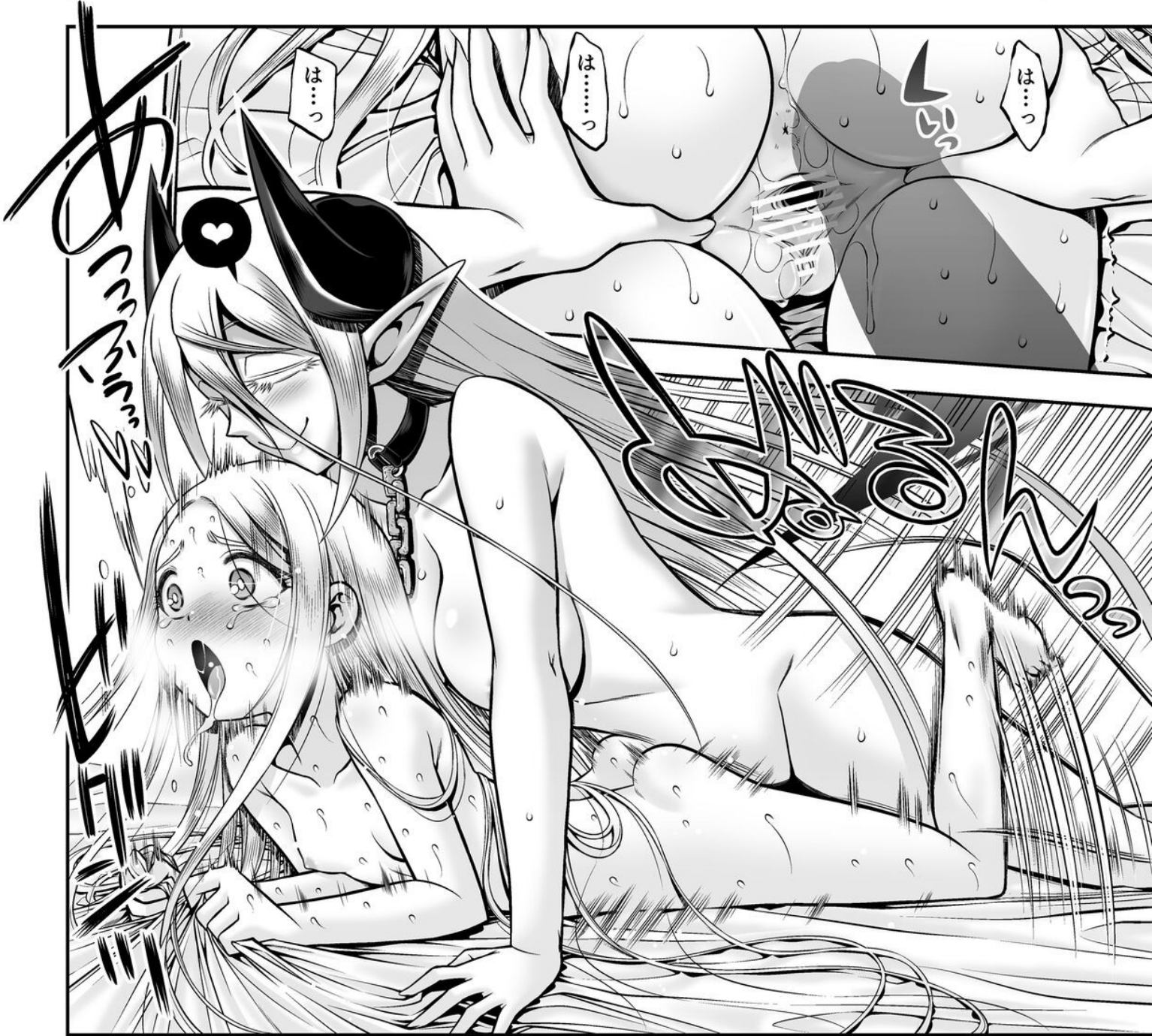






お友達に

なりませう?



は...

は...

は...

♡



こんな  
すんなり  
啜えこん  
じゃって

あ...

はっ

あ...♡

貴女の  
おまんこは  
もう私のこと  
大好きみたい♡



言ったでしょ♡  
今は女神だって  
見えないふたりきり  
恥ずかしがること  
ないわ

だから気兼ねなく  
このまま

漏らしちゃごま...

しょ♡

あはっ♡  
あったかあい♡



もう全部  
出しきっちゃい  
ましょ♡

とっ  
とまじなら…っ  
とまじなら…っ

はあ…あっ

あ

あああ…っ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

私…もう  
壊れちゃったのかな…

魔族に犯されて  
お漏らししながら  
絶頂しているのに…  
なぜ…

なぜこんなに…  
幸せを  
感じているの…

私…  
こんなで本当に…  
まだ…

聖女に  
戻ることが  
できるのかな…

次で

最後にしましょうか

次に貴女が  
達するのと同時に  
私も射精するわ

私は貴女と  
もつと仲良く  
なりたいけれど

貴女がどうしても  
女神を取ると  
いうのなら

快樂よりも  
苦難を望むのならば

その覚悟に  
敬意を表して  
それで終わりにして  
開放してあげる

そして二度と  
貴女の前に  
姿を見せないと  
約束する



だから貴女が  
聖女を続けるなら  
これが最後の快楽...

あ...

あ

あ...

あ...あ...

は...っ

最後の甘いひと時を  
過ごしましょう...?

あ...

次で...

最後.....

これが...終われば...

帰ることができる.....

お役目に...  
戻れるんだ...

帰ったら...  
神官長様たちに  
謝らなくちゃ...





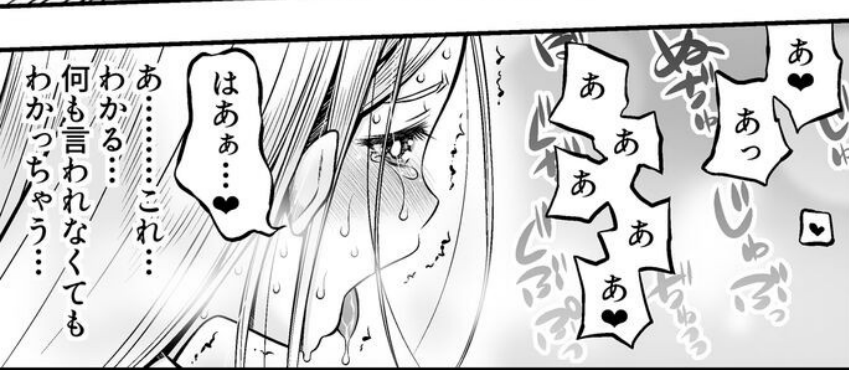


だから...  
お許し...くださいませっ

お許しくださいませっ

気持ち...  
よくなってしまっ  
ごめんなさいっ

駄目な聖女で  
ごめんなさいっ



はああ...

あ.....これ...  
わかる...  
何も言われなくても  
わかっちゃう...



でも...これれ  
最後れしゆから...

もうちょっとだけ  
お許ひくだしやひっ

んあっ



で...でも  
我慢しなくちゃ...  
聖女に戻るの  
だから...

今...  
全部受け入れたら...  
きつと今までで一番  
気持ちよくしてもらえる...  
今までで一番幸せに  
なっちゃう...

あ

あ

あ



あ♡

あ♡  
あ♡

みぢぢ...

んあ♡

うふふっ  
貴女の好きなどこ  
ぐりぐりして  
あげる♡

もっ

もう  
きぢぢ  
よおおっ

あっ

やっ

ひ♡

もっ...  
きぢぢの  
もっとして  
ほしいのこっ

さごごっ  
なのこっ♡

んあ♡...あ

あっ あ...っ  
おわっぢぢうっ  
おわっぢぢうの  
やだあっ♡

あ...っ♡

ひ♡



ふふっ  
もうすっかり  
じゅぼじゅぼ  
されるの大好きに  
なっちゃった  
わね♡



おねがいじまずう  
さつきみだいにっ  
イカせるのっ  
少しの間っ  
まっでくださひっ

みぢぢ

もう少し  
だけえ...っ

きぢぢひのっ  
もうすっぢだけ  
つづけて  
くだひゃひィ







あ……あれ？  
いまっ  
私の…中…で  
なにかつ

壊れ……



あ……♡

あ……♡

あ……♡

あ……♡

あ……♡



あ  
あ  
あ

あ

あ

あ

あ……♡



あ  
あ  
あ

あ



あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ



貴女と私は今

魂で結ばれた

契約

完了♡

あ...あれ...?

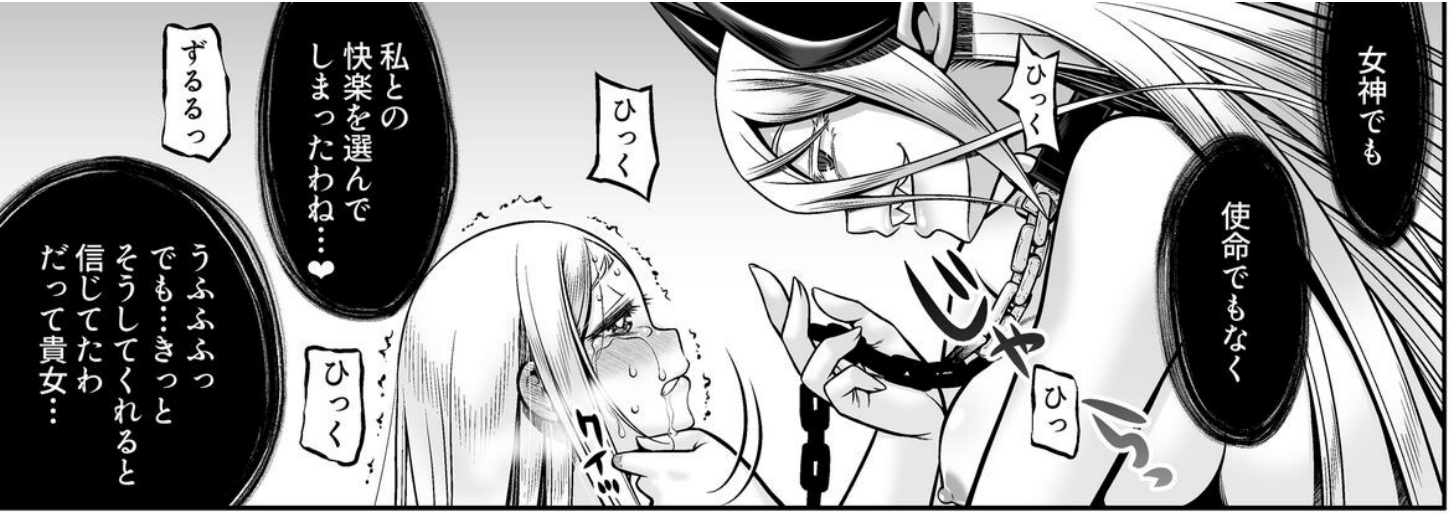
最後...なのに...

お役目...

ちゃんと  
戻らなくちゃ...  
いけないのに...

い...いけ...  
なが...っだ...

の...



女神でも

使命でもなく

ひっく

ひっく

ひっく

私との  
快樂を選んで  
しまったわね……♡

ひっく

ずるるっ

うふふふっ  
でも……きつと  
そうしてくれると  
信じてたわ  
だって貴女……



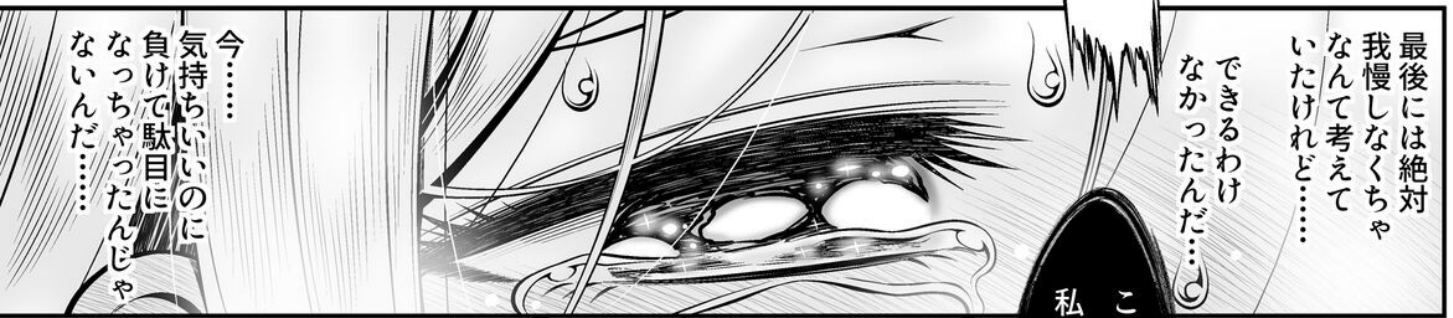
最初に注いだ  
淫魔汁  
結局最後まで  
浄化しなかった  
ものね♡

……っ！

ああ……

そうか……

私……

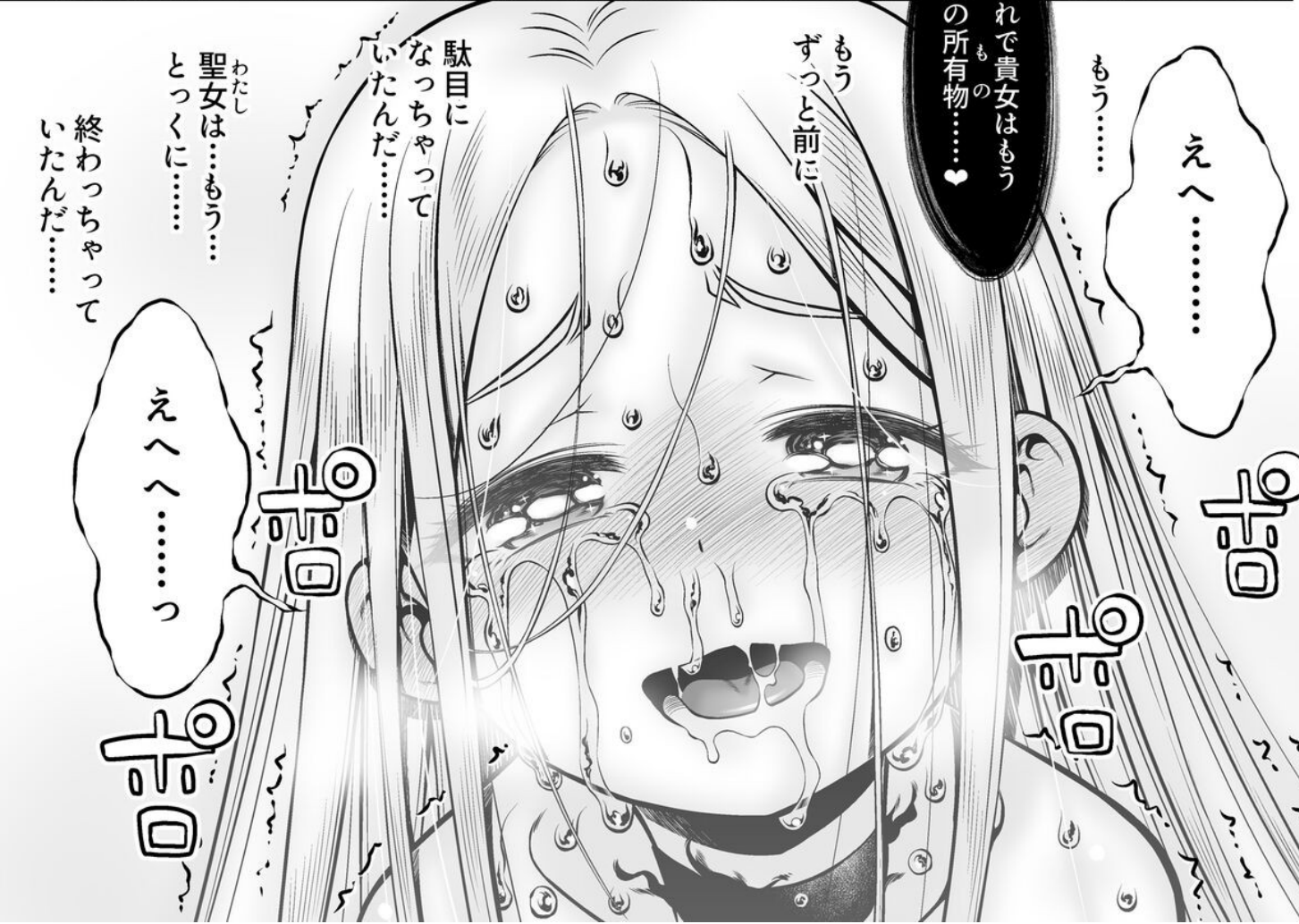


最後には絶対  
我慢しなくちゃ  
なんて考えて  
いたけれど……

できるわけ  
なかったんだ……

これで貴女はもう  
私の所有物……♡

今……  
気持ちいいのに  
負けて駄目に  
なっちゃったんじや  
ないんだ……



えへ……

もう……

もう  
ずっと前に

駄目に  
なっちゃって  
いたんだ……

わたし  
聖女は……もう……  
とっくに……

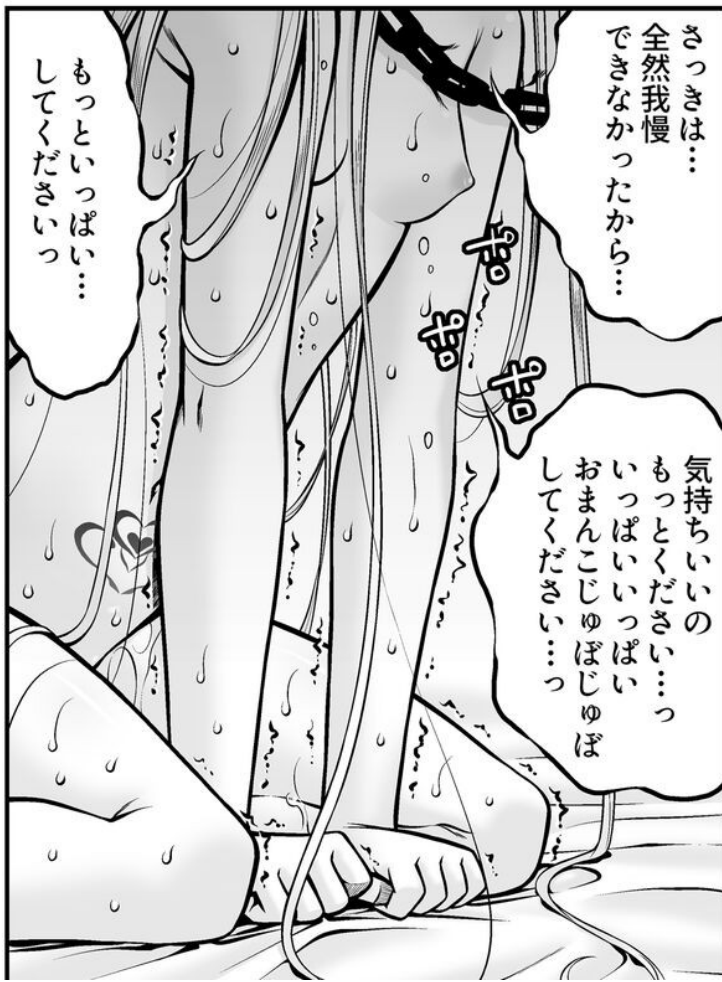
終わっちゃって  
いたんだ……

えへへ……っ

あはは

あはは

あはは





もう……  
女神様の  
ことも……

使命のことも……

これから  
先のことも全部……

全部……忘れて……



気持ちいいこと以外  
なにも考えられなく  
なるまで……

めちやくちやに  
犯してください……



望みを

叶えてあげる♡



いい…ですっ  
術でもなんでも  
使っていいです…  
からっ

だから…  
もっととろとろに  
してください…

おやおや  
もうすっかり  
欲しがりさんね

そうね

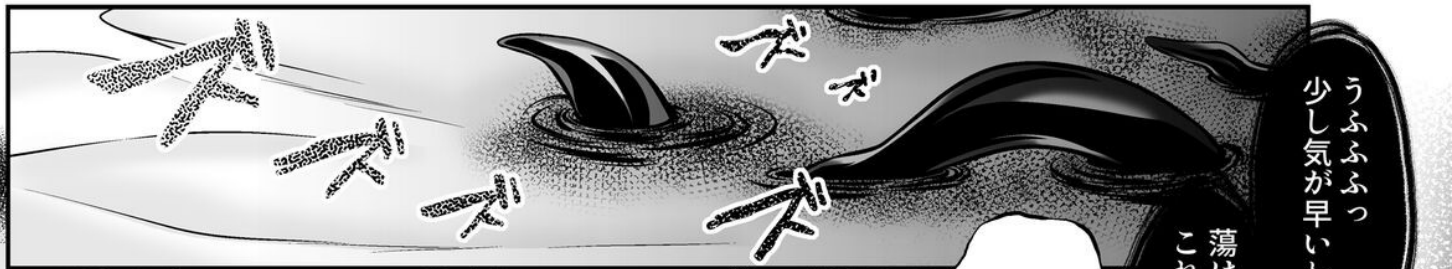
貴女が  
いいというなら…  
天国よりもいいところに  
連れて行ってあげる♡





おまんこ

とけちやうううっ♡



うふふふっ  
少し気が早いわよ

蕩けちやうのは  
これからなんだから♡

あ…っ  
これっ  
昨日のっ

こわれ…ちやうっ  
わらひ…っ  
今度こそ  
壊されちやうんだっ

あらら  
まだそんな心配  
されちやうなんて  
私って信用  
ないわねえ



あ

は

あ

あ

あ

ちやあんと  
加減して  
あげるから  
安心して♡

あ

あ

あ

ううう

あ♡お♡あ♡あ♡あ♡  
あー♡♡♡♡♡♡♡♡

ふふっ  
さつそく甘イキ  
しまくってるわね♡

ド・コ・ガ  
イイのかなあ〜？  
ここかしら？  
それともここかしらあ？  
一番いいとこで  
深イキさせてあげる♡

そっそっ  
そごもおっ  
そっ  
そっ

ぞろり  
そしひひひごっ  
しひひよおッ

おっ  
んご♡  
いちばんごなの  
わがんにゃひいイッ  
ぜんぶっ  
ぜんぶさもぢいひイッ

ぬるぬる  
ぬるぬる  
ぬるぬる

じゅわ  
じゅわ

ぬるぬる  
じゅわ  
じゅわ

ごんなの味わったらっ  
ごんなのっ  
何度もされたら  
どうにがなっぢゃい  
ますうううっ

あだまッ  
おぼがに  
なっぢゃう  
ううううッ

ふふっ  
それが望みだったでしょう？  
おまんこほじられることしか  
頭はないお馬鹿に  
なっぢゃいましよ♡

あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ



大丈夫？  
意識飛んでた  
みたいだけど

また  
やりすぎ  
ちゃった  
かしら？

…い…え…  
とて…も  
きもひ…  
よかつられふ…



……あ



失神しちゃった？

……あらっ…

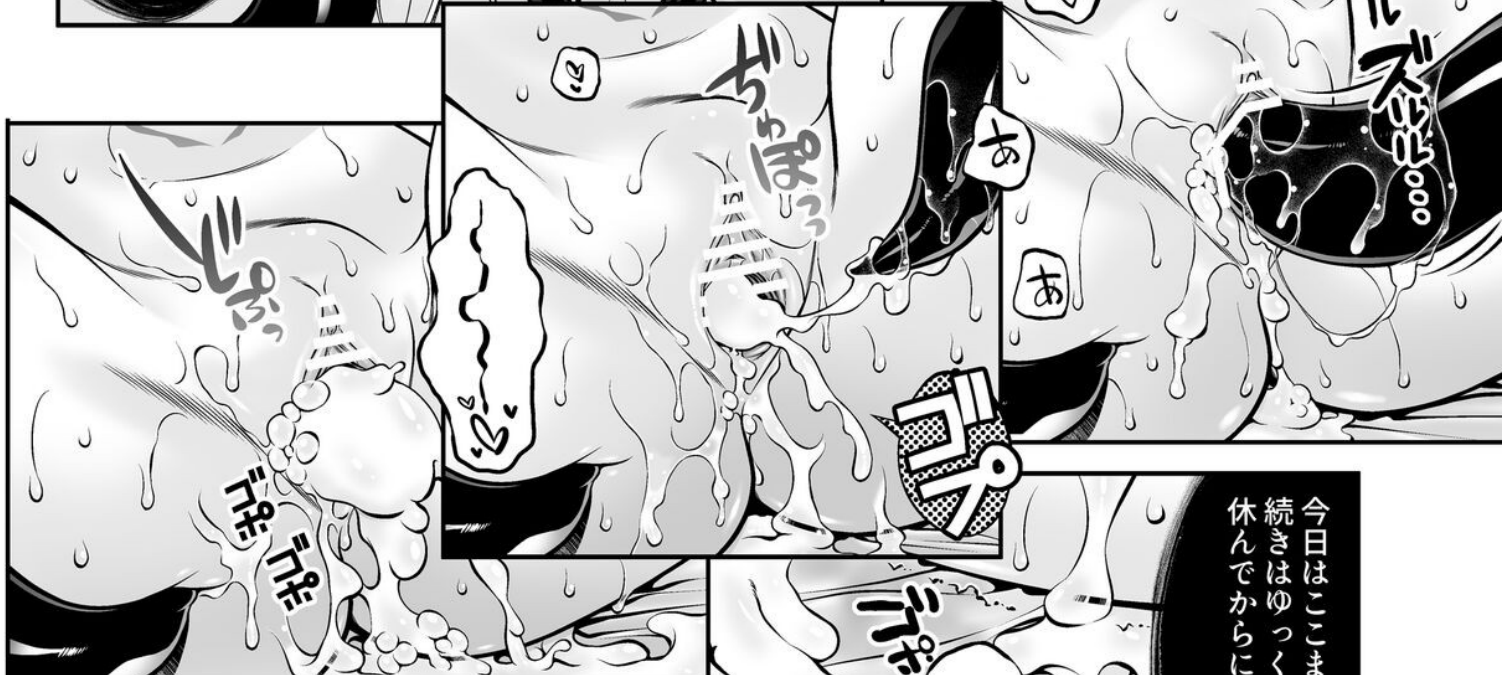


どこもかしこも  
きもひよくれ…  
全身ふわふわで…  
なにも考えられ  
なくなつて…

頭の中…  
真っ白  
なっちゃつて…

いつのまにか…

さすがに聖女様といえど  
体力に限界がきて  
しまったみたいね



今日はここまでにして  
続きはゆっくりと  
休んでからにしましょう

ま…まだ…  
だい…じよぶ…  
れすから…

もっと…  
きもちいいの  
いっぱいして  
くらひゃひい…

そんなに  
焦ることはないわ

あ……♡  
あは♡

今日からは  
これが貴女の  
日常なのだから  
毎日味わえるわよ♡

あらあれほど嫌がっていた  
淫魔汁を注がれて  
悦んでいるし  
もうだいぶ怪しいんじゃないかしら？  
でもまだまだこれからよお

壊れちゃいそう……♡

毎日……♡  
毎日こんななんて

えへへっ

ふあぁ……♡

もおろつと気持ちよくなるように  
じっくりと念入りに……  
世界中のどんな好色で淫らで  
色狂いの卑しい娼婦よりも  
善がり狂える身体に  
開発してあげる♡

さあ一緒に  
どこまでも堕ちて  
しまいましょ

わたし  
淫魔の  
可愛い可愛い  
聖女様♡





■誌名 : 淫魔と堕ちた聖女  
■発行 : かぜうま  
■発行者 : 南☆  
■発行日 : 2024年9月14日  
■連絡 : isogai@big.or.jp  
■印刷 : サングループ

※未成年者の所持閲覧を固く禁じます  
※無断転載・複製、  
ネット上へのアップロードを禁じます

## あとがき

お久しぶりです。はじめての方ははじめまして。南☆です。

前回もページ数が多くなって作業中にすごく後悔したはずなのに描きたいものどんどん描いたらさらにページが増えました。アホです。

実は元々は今作と前作をあわせてお話を1パッケージ50数ページくらいで考えていたのですが、ちょっと展開が急ピッチすぎるのと、もっとじっくり描写したいシーンが増えたため二冊に分かれました。二冊合わせて予定の3倍近くになってしまい、むしろどう50数ページに収めるつもりだったのか今となっては謎です。いや探せばどこかにネームが残ってるかな…。そんなわけで前作が快感という名の暴力で徹底的に心を折りにいくパート、今作が事実上抵抗が一切許されず全て受け入れざるを得ない状態で墮落させられるパートになります。

キリのいいところで分けた結果、前作ではひたすら乱暴されるだけの内容になってしまい、いや、むしろそれがいいんだろう！？

というような鬼畜趣味な方は、今回の内容は期待はずれだったり物足りないと感じてしまうかもしれませんが、個人的にはやはり聖女たるもの乱暴されて無理やり淫紋刻まれました、も趣がありますが、信仰心も使命感も残しつつ、それが駄目だと理解しながら抗えず快楽に手を伸ばしてしまい最終的に「受け入れてしまったのは自分自身でした」という烙印を押されてこそだと思いますのでどうかご容赦ください。

実はこの先のお話も考えていて、聖女以外の犠牲者も登場したり聖女様自身はもうダメだこの聖女感がどんどん加速していく予定なのですが次回作は一旦このお話の続きとは別の一話完結のものを描きたいと考えています。一作描くのにかかる時間も時間がかかりすぎているので次はもう少し時短を心がけたいです。

それでは、また別の作品でお会いできれば幸いです。